

公開版

MICEにおけるサステナビリティ 評価制度の調査事業

業務実施報告書 令和6年3月
観光庁

本事業の目的と業務の概要

事業の目的と業務の位置づけ

本業務の目的

都市に対するサステナビリティの評価指標及び認証制度等についての調査、評価指標の取得実証等を通して国内のMICE 推進都市のサステナビリティへの取組を促進し、我が国における国際MICE の誘致競争力の向上を図る

(1) サステナビリティの評価指標及び認証制度等についての調査

- 国際的な機関、企業が実施する、サステナビリティの評価指標、認証制度及び国際規格を調査
 - 各制度に対し、対象(都市、コンベンションビューロー、主催者、関連企業等)や、特徴、目的、取得までのプロセス、費用、加入数、期待される効果等について調査・分析

(2) 評価指標プログラムを通じた我が国のMICE推進都市のサステナビリティへの取組における効果や強み・弱み、改善に向けた課題等の把握・検討

- 各MICE 推進都市の評価指標プログラムへの参加を通じた、各都市のMICE 開催地としてのサステナビリティへの取組についての効果や課題の把握・整理と改善策の検討・提案
 - 熊本市、高松市に対し、GDS-Indexへの参加、GDSからのフィードバックを支援
- 我が国としてMICE 開催都市におけるサステナビリティへの取組に関しさらに改善・強化すべき点や、今後国際的にアピール・発信強化すべき点等の整理・提案
 - GDSと協働しながら、日本の各都市の傾向や改善を図るべき取組・課題、日本としてアピールすべき強み、国としての期待される取組を検討・整理

(1)サステナビリティの評価指標及び認証制度等についての調査、概要

概要

- 国際的な機関または企業が実施する、都市、コンベンションビューロー、主催者、関連企業等向けのサステナビリティの評価指標、認証制度及び国際規格について、MICEに限らず観光地向けのものも含め、リストアップする。その中でMICEに関連性が高いものについて、各制度の特徴や目的、取得までのプロセス、費用、加入数、期待される効果等について調査・分析を行い、MICE推進都市がそれらをどのように活用しうるか、使い分けを行うべきか等を整理する。

アプローチ

- 観光・イベント業界向けのサステナビリティ関連の国際認証・評価制度について、MICEに関連性が高い指標、制度及び規格を調査対象とする
- 調査結果をまとめる他、特にMICE推進都市向けと考えられるものについては、各制度をどのように活用しうるか、使い分けを行うべきかをまとめる

業務内容	実施項目	実施手法	成果物
サステナビリティの評価指標及び認証制度等についての調査	<ul style="list-style-type: none">各指標、制度及び規格の特徴、目的、取得プロセス、費用、加入数、期待される効果等について調査・分析上記について、MICE推進都市向けに使い分けをまとめる	<ul style="list-style-type: none">デスク調査	<ul style="list-style-type: none">国際機関や企業が実施する、サステナビリティの評価指標、認証制度及び国際規格の一覧MICEと関連性の高い部分についての詳細(左記調査項目を含む)

サステナビリティ認証制度の内、都市向けの制度はGDS-Index、EarthCheck、Green Destinations、Biosphere、Vireoの5つ

全認証・評価団体の概観

次ページにて詳細比較

	GDS-Index	EarthCheck	Green Destinations	Biosphere	Vireo
Destination	○	○	○	○	○
Facility	—	○	—	○	—
Event	—	○	—	○	—
北米	(3)	9 (0)	(6)	70 (0)	—
中南米	—	140 (4)	(20)	30 (6)	—
欧州	(50+)	80 (15)	(40)	2,000 (46)	(8)
中東・アフリカ	—	40 (0)	(4)	5 (0)	—
アジア	(7)	150 (4)	(25)	—	(3)
監査	— ¹⁾	毎年	3年毎	毎年	3年毎
更新	— ¹⁾	毎年	3年毎	毎年	3年毎

Green Key	Green Globe	Green Key Global	Asian Ecotourism Network	Green Tourism	Events Industry Council	ISO 20121: 2012
—	—	—	—	—	—	—
○	○	○	○	○	○	—
○	○	○	—	○	○	○
300	20	1,000	—	—		
10	80	3	—	—		
3,000	160	1	—	700	不明	1,000+
50	60	1	—	—		
100	60	—	不明	—		
毎年	毎年	毎年	不明	毎年	毎年	毎年 ²⁾
毎年	3年毎	毎年	不明	毎年	3年毎	3年毎

1. 評価制度のため、認証の付与はなし
 2. 認証機関「British Standards Institution」による認証付与を想定

前述5つの認証制度は、共通して長期間のコミットが必要。
一方、比重を置く項目が異なり、その点において使い分けるべき

都市の認証・評価を行う制度の比較(仮説を含む)

		GDS-Index	EarthCheck	Green Destinations		Biosphere	Vireo
				Green Destinations TOP100 Stories	Green Destinations		
概要	評価/認証	評価	認証	評価	認証	認証	認証
	要する期間	約10カ月	約6-12カ月	約6カ月	約6-12カ月	約9-12カ月	約6-12カ月
	更新	継続参加が一般的	毎年	毎年	3年毎	毎年	3年毎
	費用	€8,500(約124万円 ²⁾)	AU\$7,500(約67万円 ³⁾)	€300 ~ €600 (約4~9万円 ²⁾)	€9,400~€16,400 (約137~240万円 ²⁾)	€10,000 (約146万円 ²⁾)~	€10,000 (約146万円 ²⁾)~
支援体制	コンサルタント有無	有り	有り	有り	有り	有り	無し
	日本語窓口・対応有無	無し	無し	無し	無し	無し	無し
規模	登録国・都市	29カ国100都市 (内、アジア諸国は 4都市、4カ国)	7カ国23都市 (内、アジア諸国は 4都市、2カ国)	37カ国102都市 (内、アジア諸国は 25都市、8カ国)	4カ国5都市 (アジアの国による参加 は無し)	8カ国57都市 (アジアの国による参加 は無し)	3カ国11都市 (内、アジア諸国は 3都市、1カ国)
	国内都市の参加実績	札幌市	無し	10都市 (釜石、東松島、阿蘇市 等)	無し	無し	無し
査定	高比重項目	都市の戦略策定・ 人員、関係者間の 協力体制等	環境(エネルギー、廃棄 物処理等)に対する 配慮等	都市に所在する観光事業者の サステナビリティに対する配慮等		自然・文化遺産の保護、 地域社会への貢献と公 正な労働慣行等	環境(自然保護や、 CO ₂ 排出、水質等) に対する配慮等

1. GDS Movementは、認証の付与はなし、2. 1ユーロ=146.07円で換算(2023年4月12日時点)、
3. 1豪ドル=89.07円で換算(2023年4月12日時点)

GDS Movementは、欧州を中心に、サステナビリティの向上を目指すDestinationに対して、評価 / 戦略策定・実行を支援

GDS Movement 団体概要

来歴

- 2010年に、国際会議協会 (ICCA) / MICE事業者のMCI¹⁾が中心となり、Destinationにおける、サステナビリティの評価指標「GDS-Index」を開発
- 2015年より、展示会事業者のIMEXも参画し、ネットワークをグローバルに展開

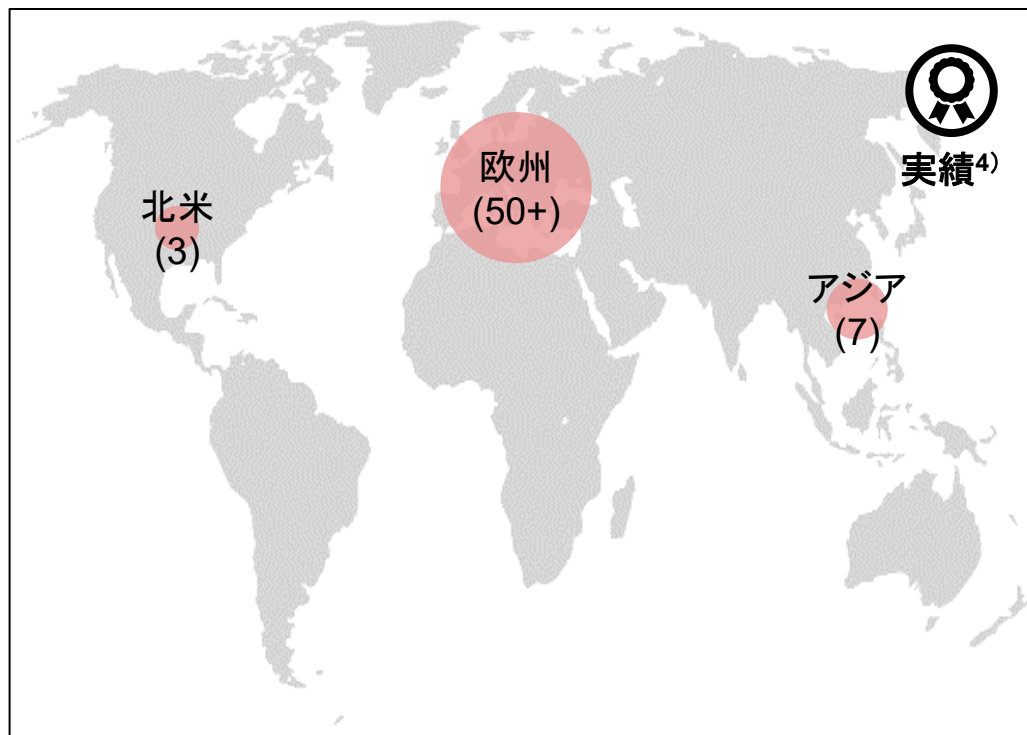
認証・評価  評価

所在国  スイス

加盟国  スウェーデン/イギリス/
フランス/アメリカなど

対象   Destination  Facility²⁾  Event³⁾

Hotel Commercial Restaurant Expo Meeting Gathering

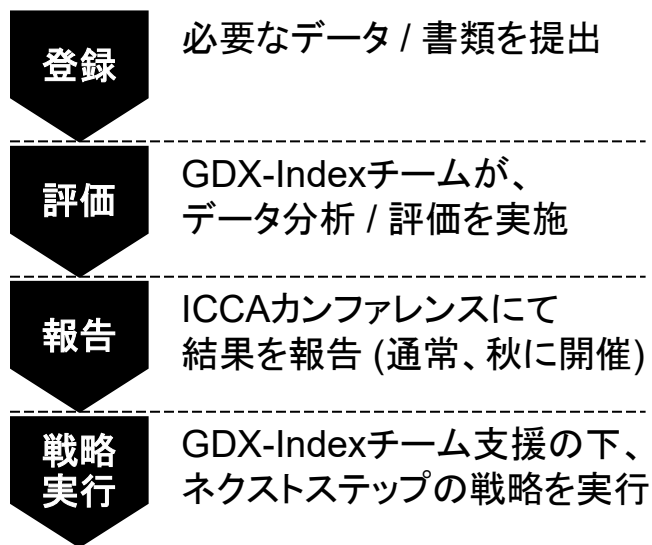


1. スイスに拠点を置き、国際会議 / コンベンションなどの運営をグローバルで展開、
2. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む、
3. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む、
4. 推計を含む

コンサルタントとの密な連携で、サステナビリティの実現を支援; Destination同士の交流も促進し、イノベーションの環境を醸成

評価の取得プロセス / 関連情報

支援実行の流れ¹⁾



価値

- 評価に加え、外部の専門家から、国際基準を達成するための戦略支援を享受可能
- 加盟するdestination同士の、交流促進イベントを通じ、知見交換が可能



費用

- GDS-Indexへの参加費用として、1destinationにつき、約100万円を支払う必要



更新

- GDS Movementは、認証の付与なし

1. GDS Movementは認証の付与なし
Note: 1USD=133.9円 / 1ユーロ=146.0円で換算 (2023年4月12日時点)

EarthCheckは、各国の都市・観光関連事業者などに対し、サステナビリティ向上支援・認証を行う

EarthCheck 団体概要

来歴

- 1987年にサステナブルな移動・観光を支援する団体として発足
- 発足以来、サステナビリティに関わる認証やコンサルティング、研修サービス等を提供

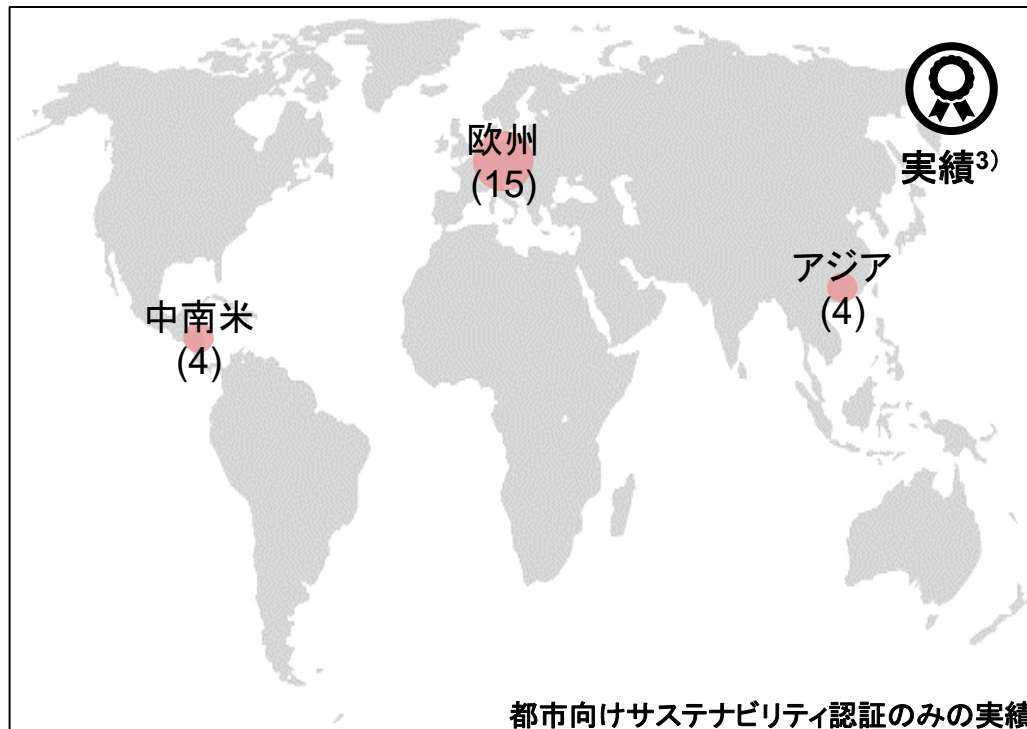
 **認証**
認証・評価

 **所在国**
オーストラリア

 **加盟国**
スウェーデン/メキシコ/
ポルトガル/中国など

 **対象**

 Destination	 Facility ¹⁾	 Event ²⁾
	Hotel	Expo
	Commercial	Meeting
	Restaurant	Gathering



1. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む、
2. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む、
3. 推計を含む

認証取得の継続年数別に認証段階の向上； 専門家によるサステナビリティに関わる施策の設定の支援を提供

認証の取得プロセス / 関連情報

取得の流れ



価値

- 毎年認証を取得し続けることにより、Silver→Gold→Platinum→Masterと認証段階が向上
- サステナビリティ規定の作成や、施策の実行等多くの場面においてサステナビリティの専門家チームによる支援を受けることができる



費用

- 認証費用として、約67万円を支払う必要



更新

- 毎年の監査を経て、毎年認証を更新

1. 監査はオンライン / 対面どちらでも実施可
Note: 1USD=133.9円 / 1ユーロ=146.0円で換算 (2023年4月12日時点)

Green Destinationsは、都市向けのサステナビリティ評価制度「Green Destinations TOP100 Stories」を世界中で展開

Green Destinations 団体概要

来歴

- 2014年にオランダにてサステナブルな観光を目指す非営利団体として発足
- 都市向け評価制度「Green Destinations TOP100 Stories」の査定基準「Green Destinations Standard」が、Global Sustainable Tourism Councilによる認定を受けた

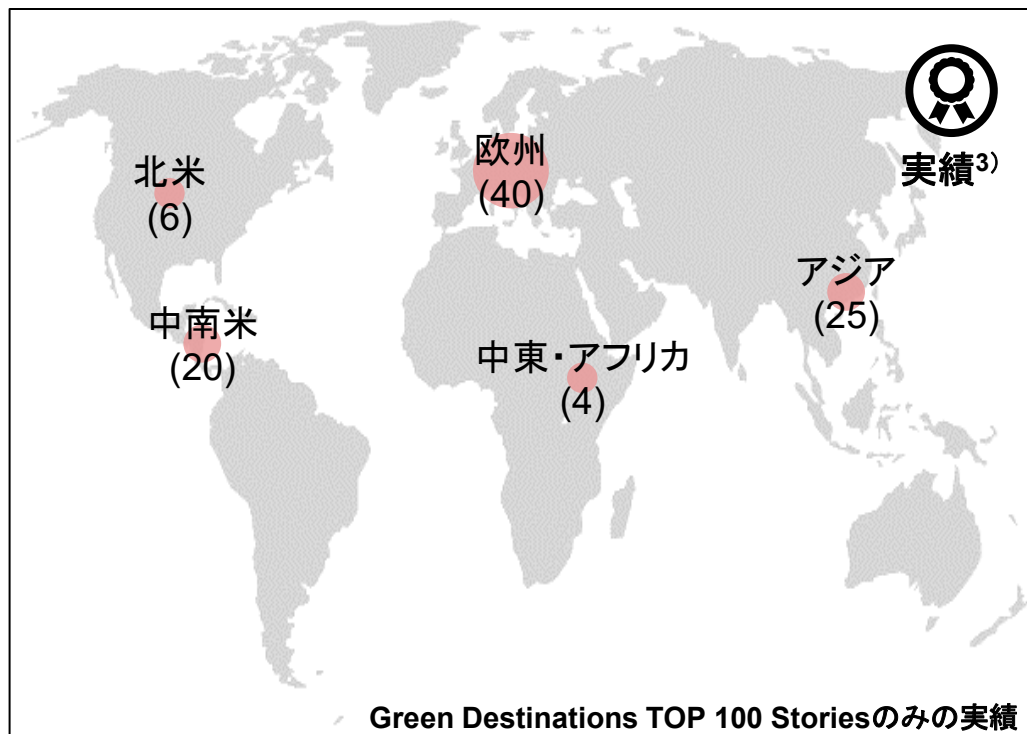
認証・評価  評価

所在国  オランダ

加盟国  日本/イタリア/
台湾/ポルトガル等

対象   Destination  Facility¹⁾  Event²⁾

Hotel Commercial Restaurant Expo Meeting Gathering



1. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む、
2. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む
3. 推計を含む

Green Destinationsが定める15~30の簡易的な評価項目について、各都市が自己評価を行い、順位付けが行われる

評価の取得プロセス / 関連情報

取得の流れ



価値

- 自己評価による評価が行われる点や、簡易的な評価項目により、参加の難易度が低い
- ランキングやスコアは公表されないため、評価が低かった場合のリスクが少ない



費用

- 約4.4 ~ 8.8万円(都市の規模によって変動)



更新

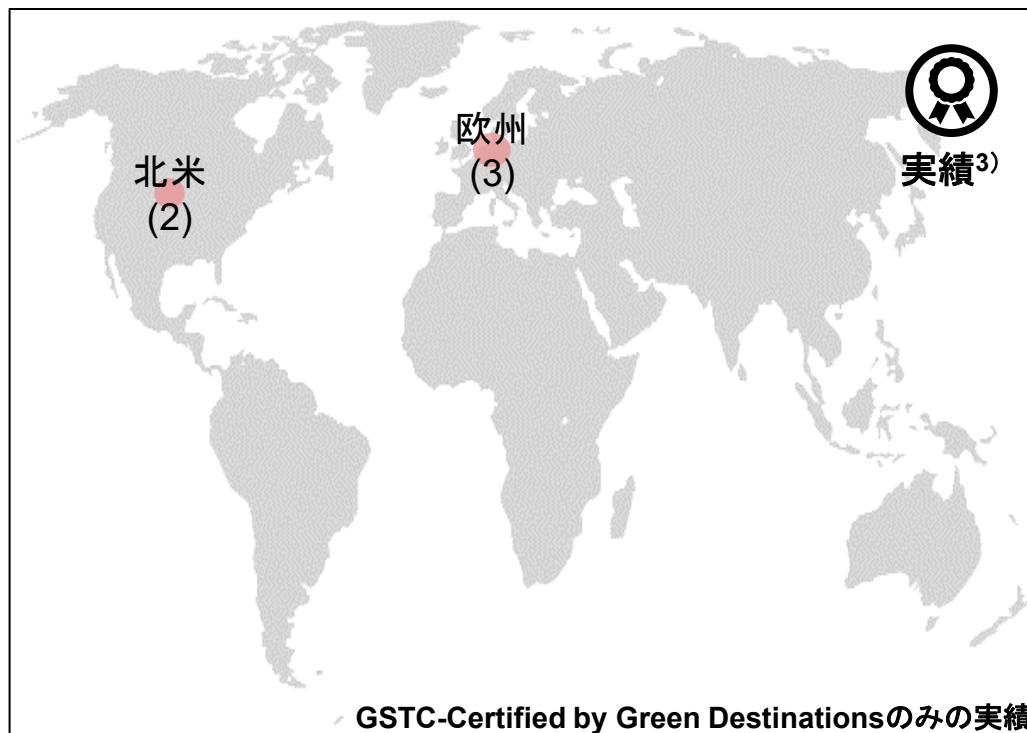
- 毎年評価を受け、更新

また、認証制度も展開しており、前述自己評価を行った約100程度の都市の内、5つは認証も取得

Green Destinations 団体概要

来歴	<ul style="list-style-type: none">2014年にオランダにてサステナブルな観光を目指す非営利団体として発足都市向け認証制度「GSTC-Certified by Green Destinations」の査定基準「Green Destinations Standard」が、Global Sustainable Tourism Councilによる認定を受けた
-----------	---

 認証・評価	認証									
 所在国	オランダ									
 加盟国	米国/オーストリア/ イタリア									
 対象	<table border="0"><tr><td style="text-align: center;"> Destination</td><td style="text-align: center;"> Facility¹⁾</td><td style="text-align: center;"> Event²⁾</td></tr><tr><td style="text-align: center;">Hotel</td><td style="text-align: center;">Commercial</td><td style="text-align: center;">Expo</td></tr><tr><td style="text-align: center;">Restaurant</td><td style="text-align: center;">Meeting</td><td style="text-align: center;">Gathering</td></tr></table>	 Destination	 Facility ¹⁾	 Event ²⁾	Hotel	Commercial	Expo	Restaurant	Meeting	Gathering
 Destination	 Facility ¹⁾	 Event ²⁾								
Hotel	Commercial	Expo								
Restaurant	Meeting	Gathering								



1. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む、
2. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む、
3. 推計を含む

前述認証制度は自己評価ではなく当該団体により、より幅広い項目において監査を受ける

認証の取得プロセス / 関連情報

取得の流れ



価値

- Green Destinationsは国際的な機関であるGSTCによる認定を受けたGreen Destination Standardに沿った認証制度を提供しているため、業界内の信頼向上に寄与
- サステナビリティ規定の作成や、施策の実行等専門家による支援の享受



費用

- 約137~240万円(都市の規模によって変動)



更新

- 3年毎に監査を受け、認証を更新

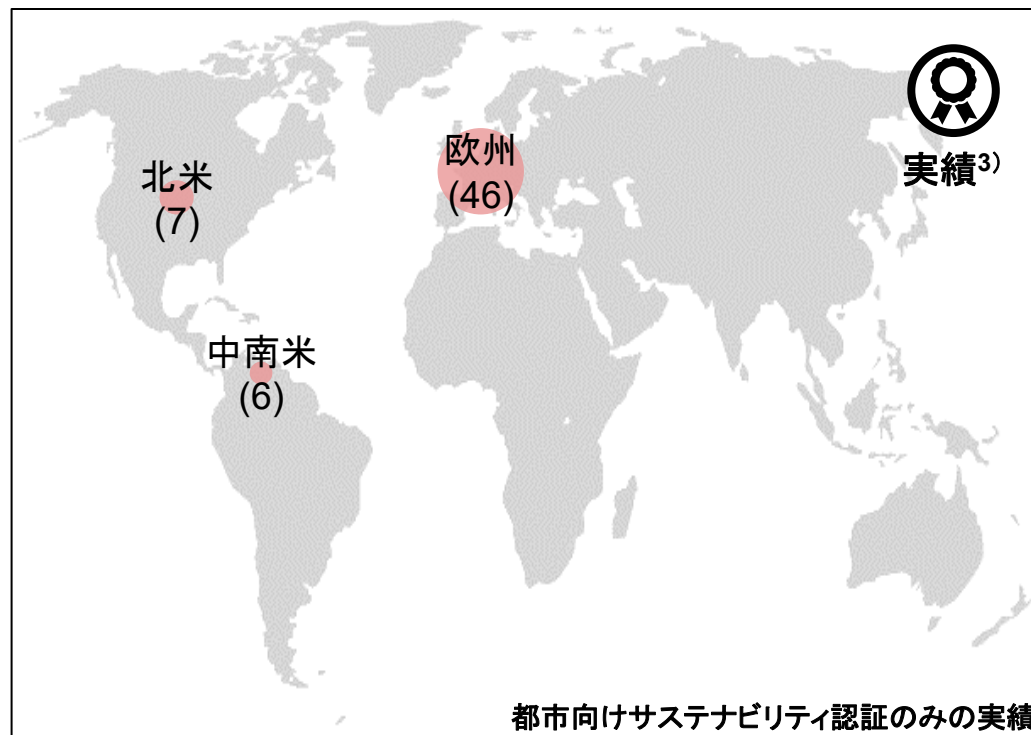
1. 監査はオンライン / 対面どちらでも実施可
Note: 1USD=133.9円 / 1ユーロ=146.0円で換算 (2023年4月12日時点)

Biosphereは、スペイン・ポルトガルを中心に、都市、宿泊施設、イベント等の観光におけるサステナビリティを認証

Biosphere 団体概要

来歴	<ul style="list-style-type: none">1995年に開催されたWorld Conference on Sustainable Tourism: Towards a New Tourism Cultureにて採択された国連憲章の原則を源流にResponsible Tourism Institute (RTI)が発足1997年にRTIや専門家によりBiosphereが設立され、観光分野のサステナビリティ認証を実施
-----------	---

 認証・評価	認証												
 所在国	スペイン												
 加盟国	ポルトガル/ カナダ/ブラジルなど												
 対象	<table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"><tr><td> Destination</td><td> Facility¹⁾</td><td> Event²⁾</td></tr><tr><td></td><td>Hotel</td><td>Expo</td></tr><tr><td></td><td>Commercial</td><td>Meeting</td></tr><tr><td></td><td>Restaurant</td><td>Gathering</td></tr></table>	 Destination	 Facility ¹⁾	 Event ²⁾		Hotel	Expo		Commercial	Meeting		Restaurant	Gathering
 Destination	 Facility ¹⁾	 Event ²⁾											
	Hotel	Expo											
	Commercial	Meeting											
	Restaurant	Gathering											

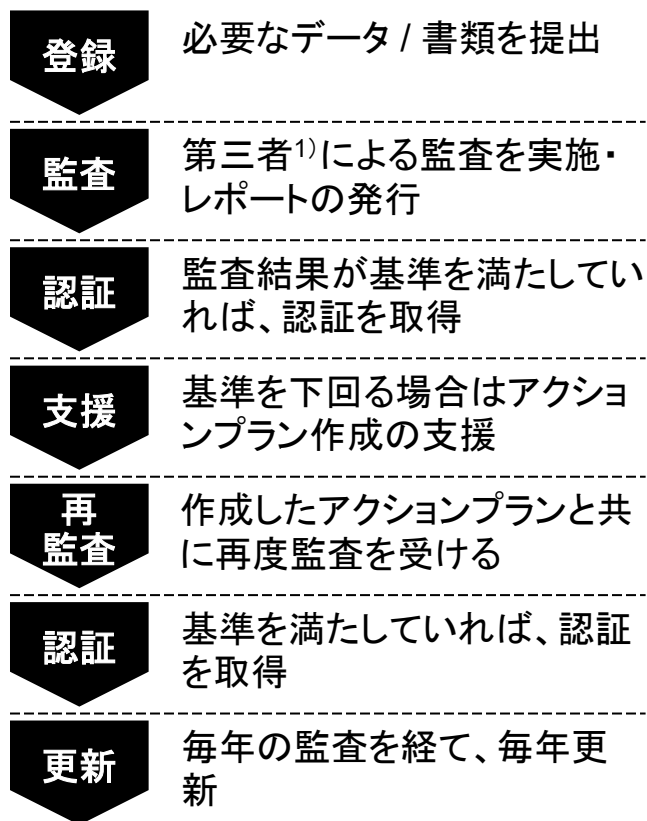


1. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む
2. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む、
3. 推計を含む

都市の観光におけるサステナビリティを認証し、アクションプラン作成によるサステナビリティの継続的な改善を支援

認証の取得プロセス / 関連情報

取得の流れ



価値

- 認証を受けるだけでなく、外部の専門家からサステナビリティに関する支援を受けることができる
- アクションプランが監査項目に含まれる等、継続的にサステナビリティを向上させる仕組みの構築を促進



費用

- 約146万円～（人口規模、受ける支援により設定）



更新

- 毎年の監査を経て、3年毎に認証を更新

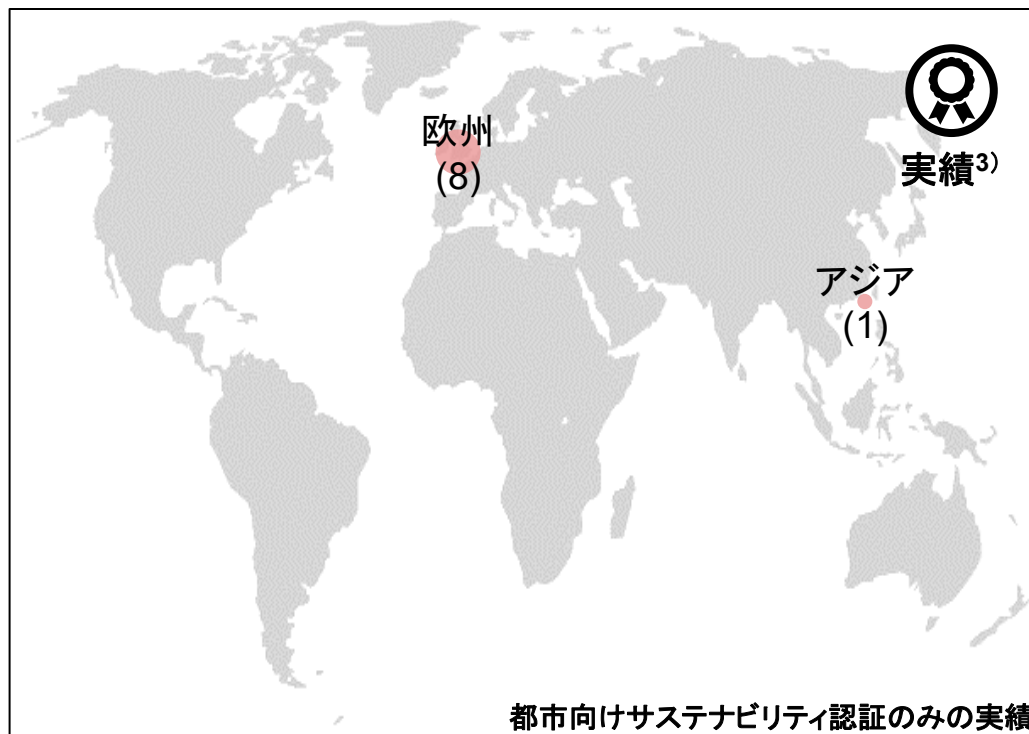
1. 研修を受け、RTIIにより承認を受けた監査員

Vireoは、比較的新しい認証団体であり、2019年より欧州・アジアにて都市のサステナビリティを認証する制度を展開

Vireo 団体概要

来歴	<ul style="list-style-type: none">2006年にイタリアにて自然保護関連の認証制度を提供する組織として発足し、以後認証制度の範囲をサステナビリティにも拡大2019年にGSTC認証機関としてGSTCより認定され、「GSTC Destination Certification」を提供
-----------	---

 認証・評価	認証									
 所在国	イタリア									
 加盟国	オーストリア/ シンガポール									
 対象	<table border="0"><tr><td style="text-align: center;"> Destination</td><td style="text-align: center;"> Facility¹⁾</td><td style="text-align: center;"> Event²⁾</td></tr><tr><td style="text-align: center;">Hotel</td><td style="text-align: center;">Commercial</td><td style="text-align: center;">Expo</td></tr><tr><td style="text-align: center;">Restaurant</td><td style="text-align: center;">Meeting</td><td style="text-align: center;">Gathering</td></tr></table>	 Destination	 Facility ¹⁾	 Event ²⁾	Hotel	Commercial	Expo	Restaurant	Meeting	Gathering
 Destination	 Facility ¹⁾	 Event ²⁾								
Hotel	Commercial	Expo								
Restaurant	Meeting	Gathering								



1. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む
2. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む、
3. 推計を含む

本格的な監査の前に、「事前審査」という形で都市のGSTC遵守度を評価；費用は他都市向けの制度と比較し割高

認証の取得プロセス / 関連情報

取得の流れ



価値

- Vireoは、GSTCによりGSTC認証機関として認定されており、業界にて高い信頼性を有する
- 事前審査を行い、認証取得に向け、向上が必要な評価項目を可視化



費用

- 約146万円~
(所在国や監査員数・日数等により変動)



更新

- 3年毎の監査を経て、認証を更新

Green Keyは、欧州を中心としてグローバルに多くの加盟国を持ち、宿泊施設を始め、幅広い施設に対する教育 / 認定を実施

Green Key 団体概要

来歴

- 1994年に、環境教育をグローバルに実施する非営利団体FEE¹⁾が中心となり、環境に配慮した宿泊施設に対する認証制度を開始
- 2002年より、レクリエーション施設や会議・イベント施設など、幅広い施設へも対象拡大

 **認証**

認証・評価

 **デンマーク**

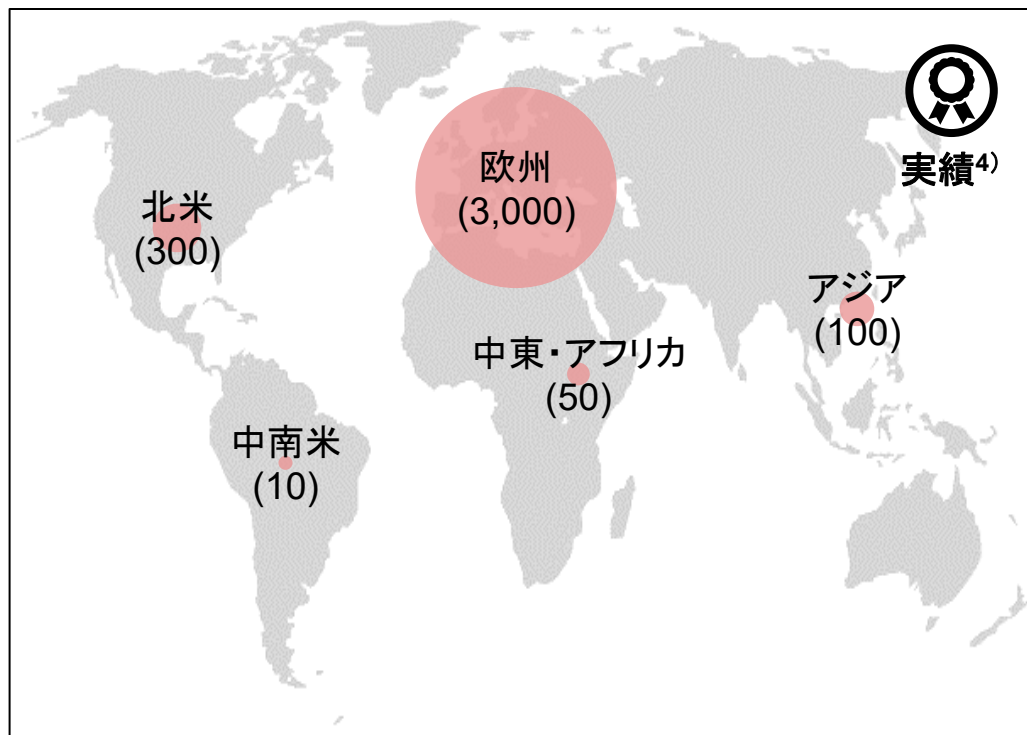
所在国

 **デンマーク/スペイン/
ギリシャ/フランスなど**

加盟国

 **対象**

		
Destination	Facility ²⁾	Event ³⁾
	Hotel	Expo
	Commercial	Meeting
	Restaurant	Gathering



1. Foundation for Environmental Education、
2. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む、
3. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む、
4. 推計を含む

国際規格を取得済みの事業者のみ申請を受け付けると共に、監査結果を第三者機関が検証することで、認証基準の品質を維持

認証の取得プロセス / 関連情報

取得の流れ



価値

- 実績 / 認知度が共に高い認証を獲得することで、業界内の信頼性が向上
- 教育 / 案内プログラムも充実しており、申請から認証授与まで、一貫した支援を享受可能



費用

- 年会費に約15万円 / 監査費に約7万円を支払う必要あり
(但し、Green Keyの運営団体³⁾が存在する場合は、運営団体が国 / 地域毎に、金額を設定)



更新

- 前年度のサステナビリティ活動に係る報告 / 審査を経て、毎年更新

1. 取得の申請には、ISO14001などの国際規格の取得を義務付け、2. Green Keyの監査内容を、独立監査法人が検証、
3. Green Key National Operator (GKNO) と呼ばれ、各国 / 地域の観光保護団体 / 観光業界の代表事業者が担当、
Note: 1USD=133.9円 / 1ユーロ=146.0円で換算 (2023年4月12日時点)

Green Globeは、オンラインの教育プログラムも活用しながら、主に観光事業者に対して、サステナビリティ向上を支援 / 認証

Green Globe 団体概要

来歴

- 1992年の地球サミットで策定された、アジェンダ21の「持続可能な開発」思想を源流に、1994年にアメリカで発足
- 2008年に、サステナビリティの認証 / オンライン教育プログラムを設立し、グローバルに展開

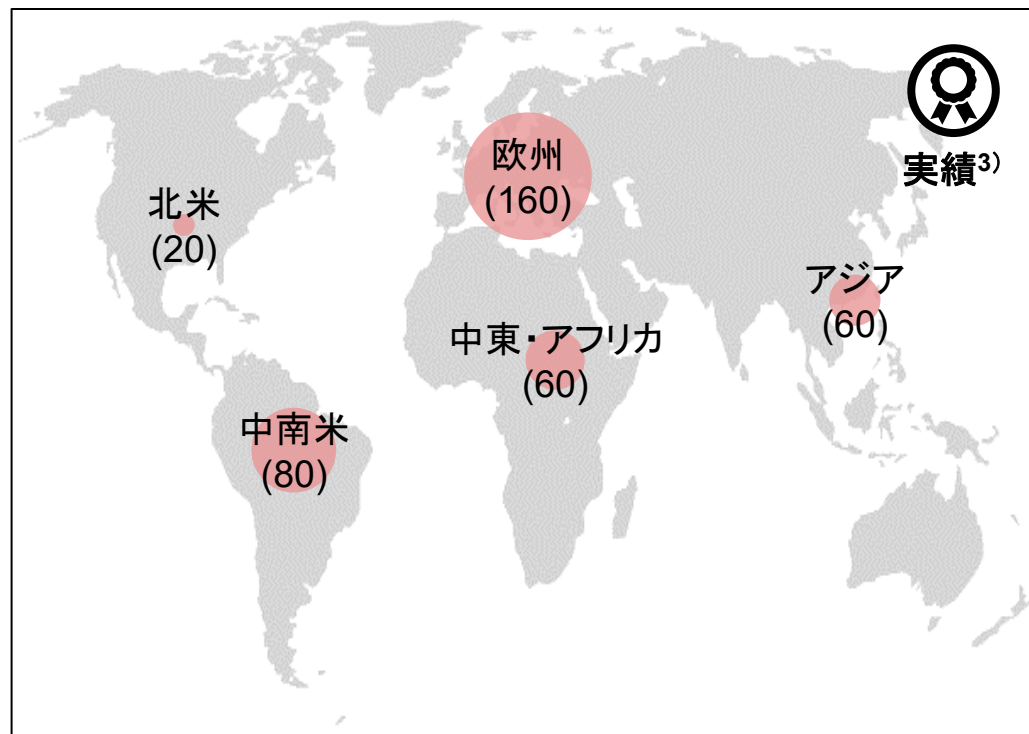
認証・評価  認証

所在国  アメリカ

加盟国  アメリカ/フランス/
ブラジル/UAEなど

対象 

 Destination	 Facility ¹⁾	 Event ²⁾
Hotel	Expo	
Commercial	Meeting	
Restaurant	Gathering	



1. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む、
2. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む、
3. 推計を含む

日々のサステナビリティ活動を重要視する認証基準により、 環境に対する意識を、継続的に事業者へ植付け

認証の取得プロセス / 関連情報

取得の流れ



価値

- 実績が豊富な認証を獲得することで、業界内の信頼性が向上
- 認証基準では、日々の活動のPDCAが重要視されるため、サステナビリティ活動の継続的な意識付けが可能



費用

- 認証費用として、10~70万円を支払う必要 (事業規模により変動)



更新

- 毎年の監査¹⁾を経て、3年毎に認証を更新

1. 監査はオンライン / 対面どちらでも実施可
Note: 1USD=133.9円 / 1ユーロ=146.0円で換算 (2023年4月12日時点)

Green Key Globalは、北米のホテル・MICE事業者を中心に、サステナビリティ認証を実施

Green Key Global 団体概要

来歴

- Green Key Globalは、ホテル業界関係者によりカナダにて設立された
- 設立以来、北米だけでなく、中米、中東、欧州にてホテルやイベントのサステナビリティ認証を行っている

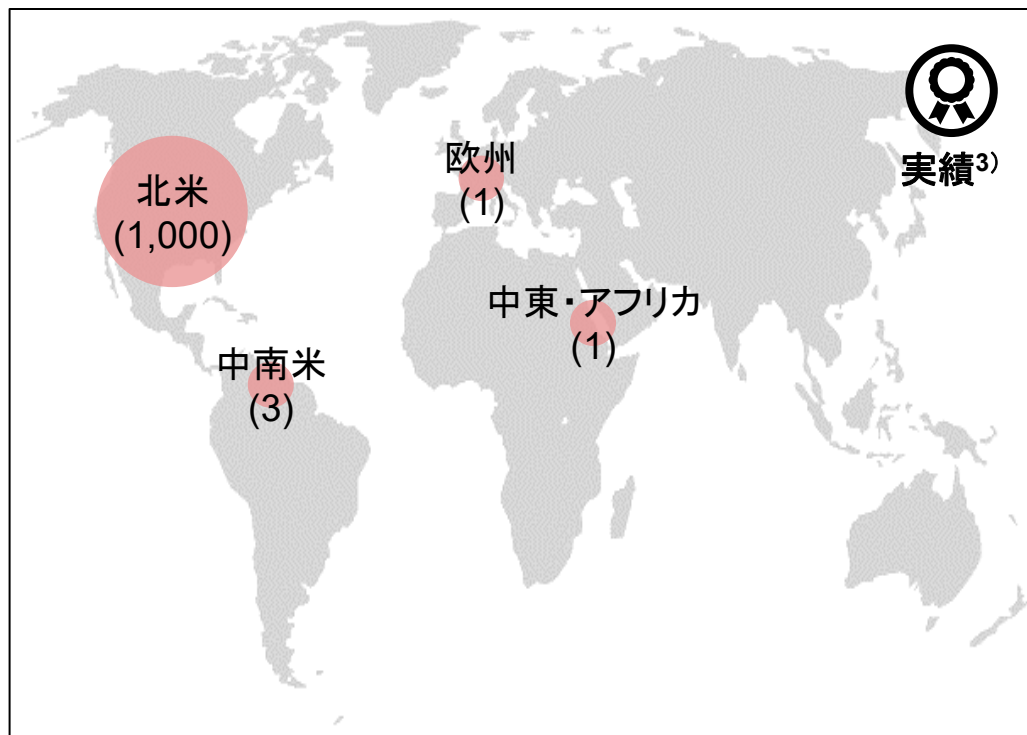
認証・評価  認証

所在国  カナダ

加盟国  アメリカ/
メキシコ/イギリスなど

対象   Destination  Facility¹⁾  Event²⁾

Hotel	Expo
Commercial	Meeting
Restaurant	Gathering

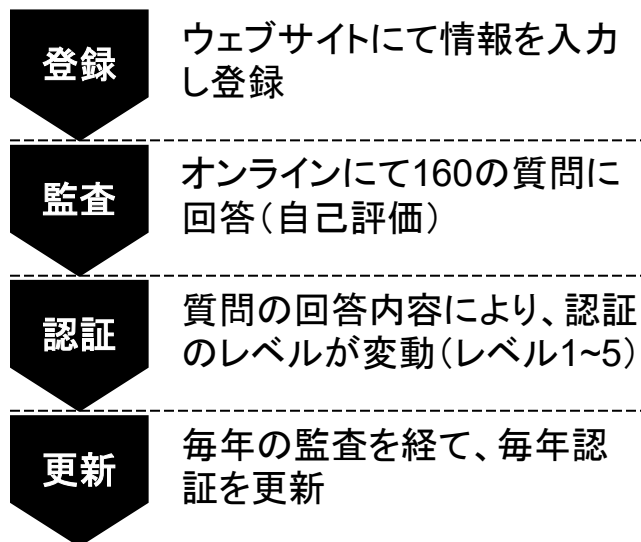


1. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む、
2. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む、
3. 推計を含む

オンラインプラットフォームを活用した自己評価による、比較的安価・短期間でのサステナビリティ認証取得が可能

認証の取得プロセス / 関連情報

取得の流れ



価値

- MICE事業者向け認証制度の内、比較的安価で認証を取得することが可能
- オンラインでの自己評価による監査が行われるため、比較的短期間での認証の取得が可能



費用

- 約5~16万円を支払う必要(会場規模により変動)



更新

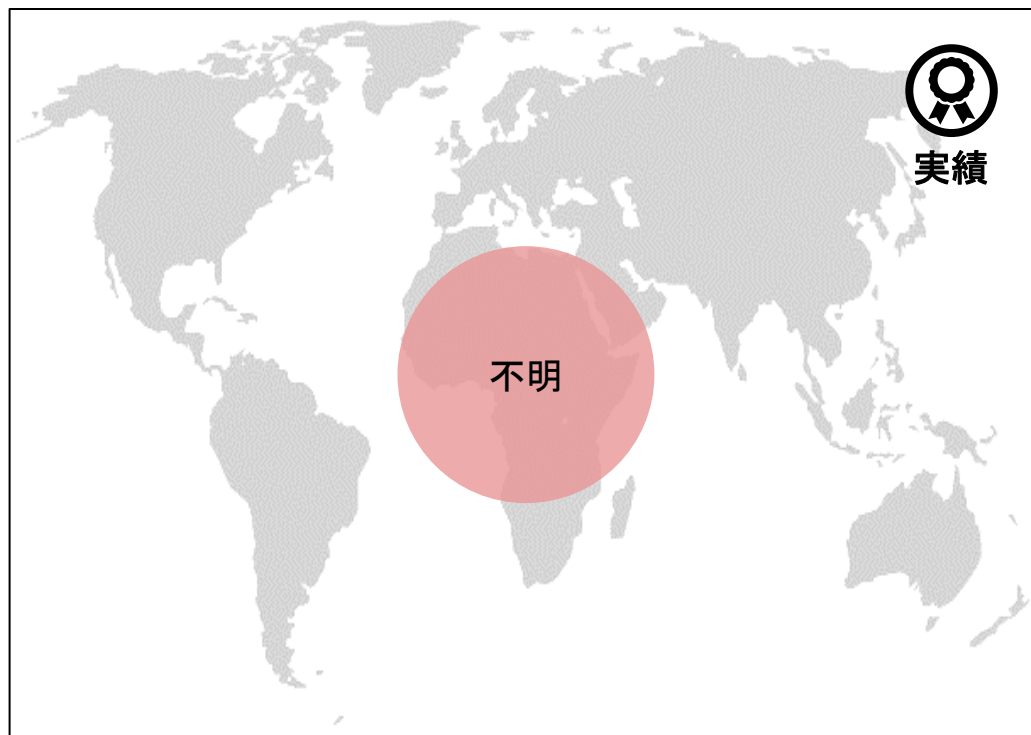
- 毎年の監査を経て、毎年認証を更新

Asian Ecotourism Networkは、アジア圏に所在する宿泊施設に向け、エコツーリズムの国際規格を提供

Asian Ecotourism Network 団体概要

来歴	<ul style="list-style-type: none">Asian Ecotourism Networkは、2015年にGlobal Ecotourism Network(グローバルにエコツーリズム推進する非営利団体)のアジア支部として発足2017年より、宿泊施設認証制度「Asian Ecotourism Standard for Accommodations」を提供
-----------	--

 認証・評価	—1)												
 所在国	タイ												
 加盟国	日本/韓国/ 中国/フィリピンなど												
 対象	<table border="0" style="width: 100%;"><tr><td style="text-align: center;"> Destination</td><td style="text-align: center;"> Facility²⁾</td><td style="text-align: center;"> Event³⁾</td></tr><tr><td></td><td style="text-align: center;">Hotel</td><td style="text-align: center;">Expo</td></tr><tr><td></td><td style="text-align: center;">Commercial</td><td style="text-align: center;">Meeting</td></tr><tr><td></td><td style="text-align: center;">Restaurant</td><td style="text-align: center;">Gathering</td></tr></table>	 Destination	 Facility ²⁾	 Event ³⁾		Hotel	Expo		Commercial	Meeting		Restaurant	Gathering
 Destination	 Facility ²⁾	 Event ³⁾											
	Hotel	Expo											
	Commercial	Meeting											
	Restaurant	Gathering											



1. 規格であるため認証・評価制度に当てはまらない、
2. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む、
3. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む

認証取得プロセス、及び費用・更新頻度については加盟した事業者以外には非公開

認証の取得プロセス / 関連情報

認証取得の流れ



不明



価値

- アジアにおけるエコツーリズムに沿って設計された規格であるため、取得によりアジアにおける信頼性の向上に寄与



費用

- 不明



更新

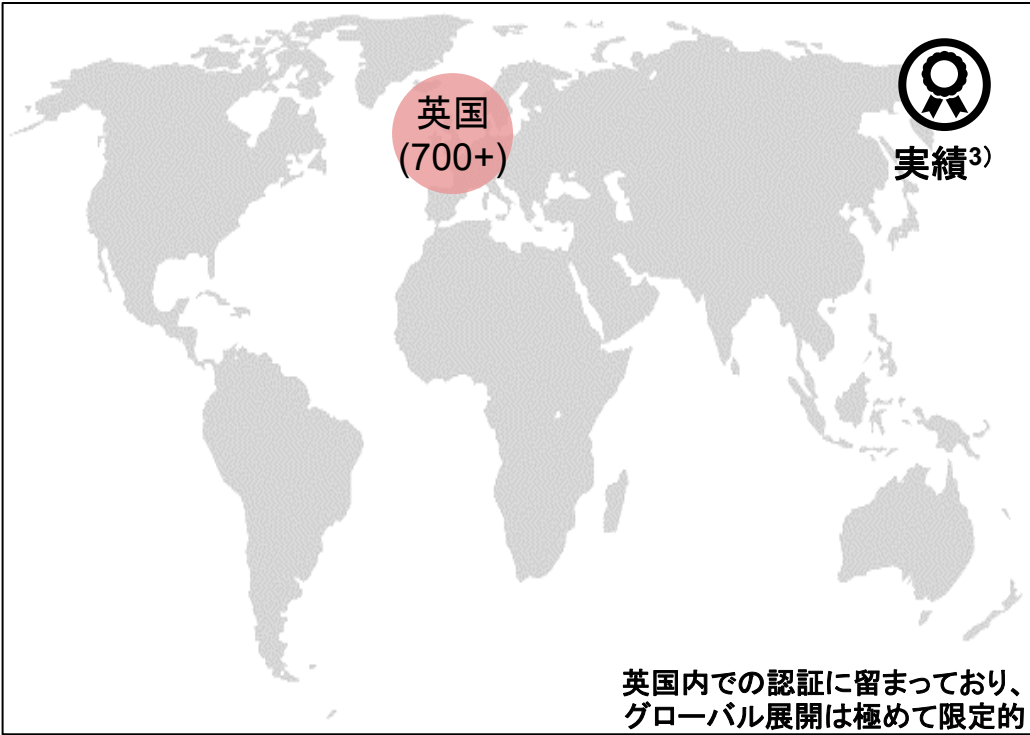
- 不明

Green Tourismは、オンラインプラットフォームを活用し、英国内イベント会場等のサステナビリティを認証する「Green Meetings」を提供

Green Tourism 団体概要

来歴	<ul style="list-style-type: none">1997年、イギリスにて観光事業者のサステナビリティ認証機関としてGreen Tourismが発足発足以来、イギリス国内にて700以上のイベント会場やホテルのサステナビリティを支援/認証
-----------	--

 認証・評価	認証												
 所在国	イギリス												
 加盟国	無し												
 対象	<table border="0" style="width: 100%;"><tr><td style="text-align: center;"> Destination</td><td style="text-align: center;"> Facility¹⁾</td><td style="text-align: center;"> Event²⁾</td></tr><tr><td></td><td style="text-align: center;">Hotel</td><td style="text-align: center;">Expo</td></tr><tr><td></td><td style="text-align: center;">Commercial</td><td style="text-align: center;">Meeting</td></tr><tr><td></td><td style="text-align: center;">Restaurant</td><td style="text-align: center;">Gathering</td></tr></table>	 Destination	 Facility ¹⁾	 Event ²⁾		Hotel	Expo		Commercial	Meeting		Restaurant	Gathering
 Destination	 Facility ¹⁾	 Event ²⁾											
	Hotel	Expo											
	Commercial	Meeting											
	Restaurant	Gathering											



英国内での認証に留まっており、グローバル展開は極めて限定的

1. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む、
2. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む、
3. 推計を含む

事業者のサステナビリティを認証することに加え、知見の共有によるサステナビリティ向上を支援

認証の取得プロセス / 関連情報

取得の流れ



価値

- 実績が豊富な認証を獲得することにより、イベント業界内における信頼性が向上
- 共同のマーケティング施策やGreen Tourismが所有するサステナビリティに関するリソースの享受



費用

- 認証費用として、2.2~9.5万円を支払う必要 (事業規模により変動)



更新

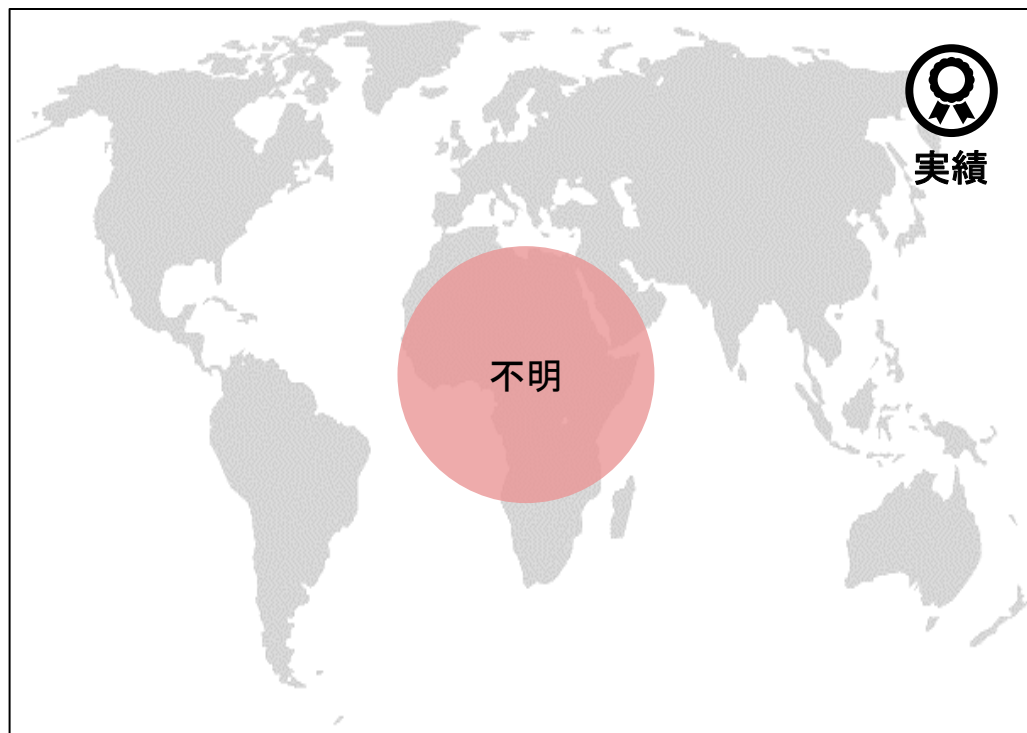
- 認証の有効期限は1年のため、毎年更新

Events Industry Councilは、北米のMICE事業者を中心に、 会議 / 展示会などの企画 / 運営に関するナレッジシェアリング¹⁾を実施

Events Industry Council 団体概要

来歴	<ul style="list-style-type: none">1949年に、ロータリー国際大会²⁾の運営支援を目的として設立した Convention Liaison Councilを源流に、2017年に改名・発足2022年に、MICE事業者のサステナビリティ向上の実現を促進するプログラムを設立
-----------	---

 認証・評価	認証												
 所在国	アメリカ												
 加盟国	アメリカ/カナダ/ シンガポールなど												
 対象	<table border="0"><tr><td style="text-align: center;"> Destination</td><td style="text-align: center;"> Facility</td><td style="text-align: center;"> Event</td></tr><tr><td></td><td style="text-align: center;">Hotel</td><td style="text-align: center;">Expo</td></tr><tr><td></td><td style="text-align: center;">Commercial</td><td style="text-align: center;">Meeting</td></tr><tr><td></td><td style="text-align: center;">Restaurant</td><td style="text-align: center;">Gathering</td></tr></table>	 Destination	 Facility	 Event		Hotel	Expo		Commercial	Meeting		Restaurant	Gathering
 Destination	 Facility	 Event											
	Hotel	Expo											
	Commercial	Meeting											
	Restaurant	Gathering											



1. 例として、会議の進行方法 / サステナビリティに関する業界基準の策定 / 共有、
2. ロータリー財団による、国際的な意見交換会 / 講演などを実施する場

MICE事業者のサステナビリティ向上を目的に、 社内の環境規定を策定支援 / 認証

認証の取得プロセス / 関連情報

認証取得の流れ



価値

- サステナビリティを向上したいMICE事業者が、
社内の環境規定策定から支援を享受
- 認証を獲得することで、MICE業界内の
サステナビリティに関する信頼 / 評判が向上



費用

- 認証費用に、30~120万円を支払う必要
(事業規模により変動)
- その他、監査 / 更新の度に費用が発生



更新

- 毎年の監査を経て、3年毎に認証を更新

1. BPA iCompli Sustainabilityが実施、

2. Platinum / Gold / Silver / Bronzeのランクが存在

Note: 1USD=133.9円 / 1ユーロ=146.0円で換算 (2023年4月12日時点)

ISO 20121: 2012は、多くの業界の国際規格を発行する組織であるISOにより設計された、イベント向けサステナビリティの国際規格

ISO 団体概要

来歴

- 1947年に67の技術委員会をもってISOが発足
- 2012年にISOに属するTechnical Management Board¹⁾により、イベント向けサステナビリティの国際規格であるISO 20121:2012を発行


認証・評価  2)

所在国  スイス

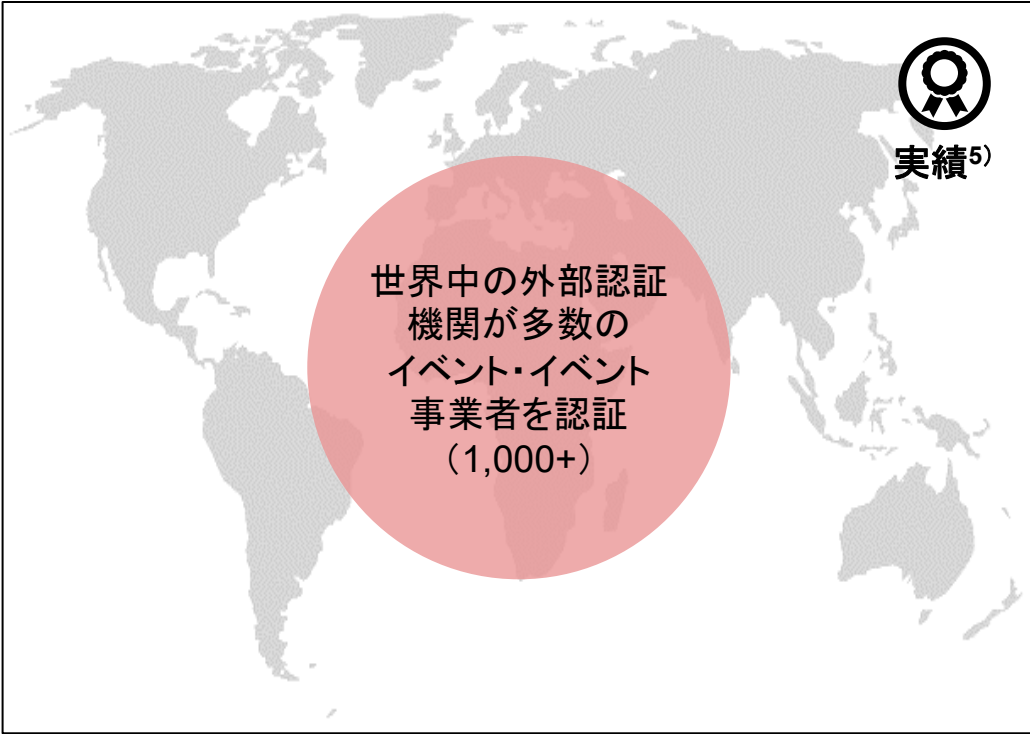
加盟国  イギリス / フランス / アメリカ / 日本等、世界に拠点を持つ

対象 

 Destination	 Facility ³⁾	 Event ⁴⁾
Hotel	Expo	
Commercial	Meeting	
Restaurant	Gathering	

実績⁵⁾ 

世界中の外部認証機関が多数のイベント・イベント事業者を認証 (1,000+)

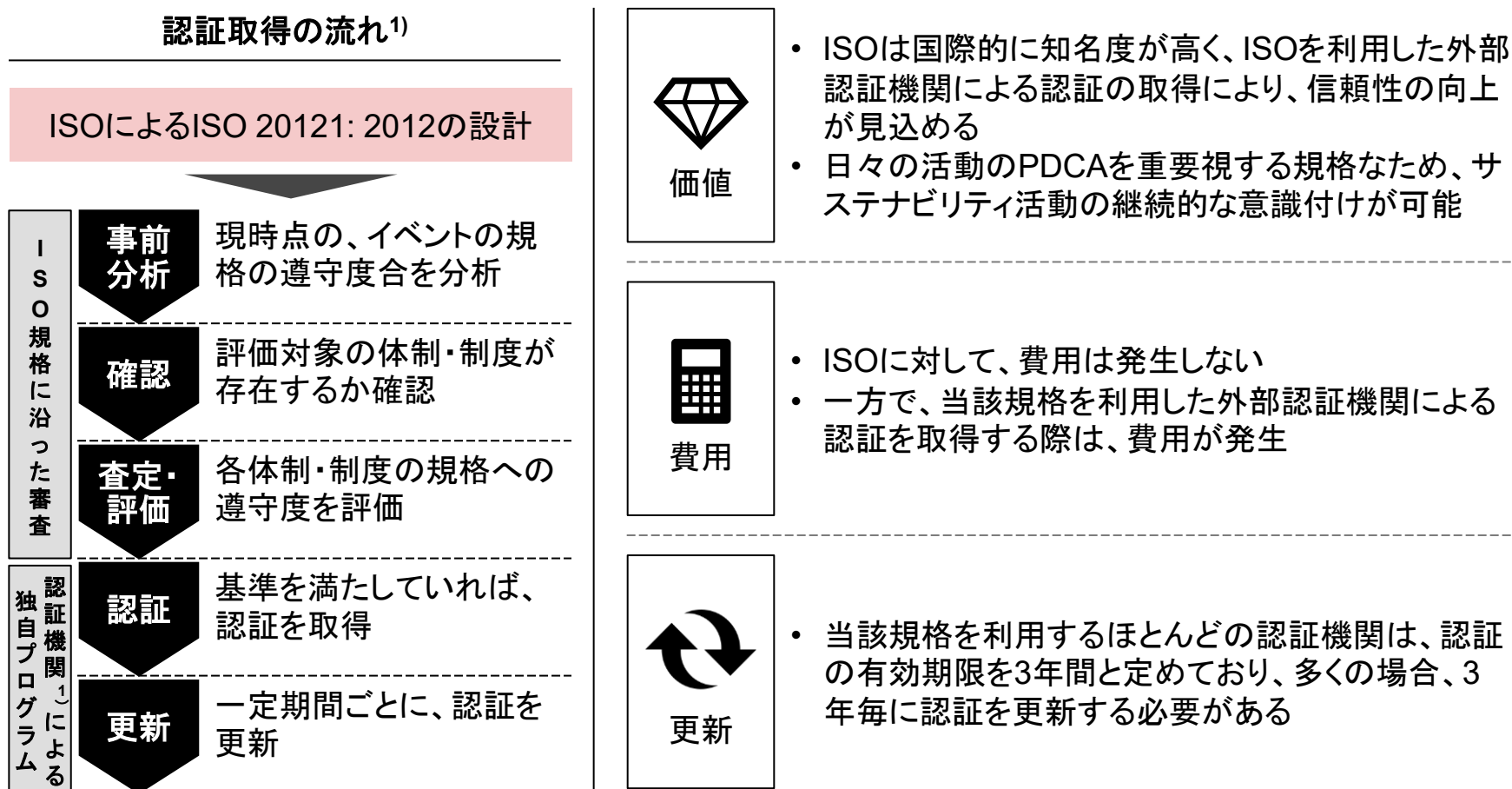


1. 複数のマネジメント・サステナビリティ関連国際規格の開発経験を持つ委員会、
2. ISO20121:2012は国際規格であり、認証・評価制度に当てはまらない、
3. 観光・宿泊施設 (Hotel) / 商業施設 (Commercial) / 飲食店 (Restaurant)を含む、
4. 展示会 (Expo) / 政府・企業等の会議 (Meeting) / 政治・宗教集会 (Gathering)を含む、5. 推計を含む

ISOが規格の設計を行い、外部認証機関が当該規格を利用し、イベント向けサステナビリティの認証を行う

認証の取得プロセス / 関連情報 (以下情報に関しては、外部認証機関が当該規格を利用した認証を行う場合を想定)

認証取得の流れ¹⁾



1. 認証機関「British Standards Institution」による認証付与を想定

各認証制度の評価項目の詳細については、以下をご参照

各認証制度の評価項目の詳細リンク

- GDS-Index: <https://www.gds.earth/wp-content/uploads/Methodology-2023.pdf>
- EarthCheck: <https://earthcheck.org/wp-content/uploads/2022/12/FINAL-EarthCheck-Destination-Standard-Version-3.0-Release-January-2022.pdf>
- Green Destinations: <https://www.greendestinations.org/wp-content/uploads/2022/11/GD-Standard-V2-2021-GSTC-Recognised.pdf>
- Biosphere: <https://www.biospheretourism.com/assets/arxius/8b85fa5b688022abdbddb9f417748e63.pdf>
- Vireo: <https://www.vireosrl.it/wp-content/uploads/2022/09/GSTC-Destination-Criteria-v2.0-ID-587.pdf>

(2) 評価指標プログラムを通じた我が国のMICE推進都市のサステナビリティへの取組における効果や強み・弱み、改善に向けた課題等の把握・検討、概要

概要

- ① 各MICE 推進都市の評価指標プログラムへの参加を通じた、各都市のMICE 開催地としてのサステナビリティへの取組についての効果や課題の把握・整理と改善策の検討・提案
- ② 我が国としてMICE 開催都市におけるサステナビリティへの取組に関しさらに改善・強化すべき点や、今後国際的にアピール・発信強化すべき点等の整理・提案

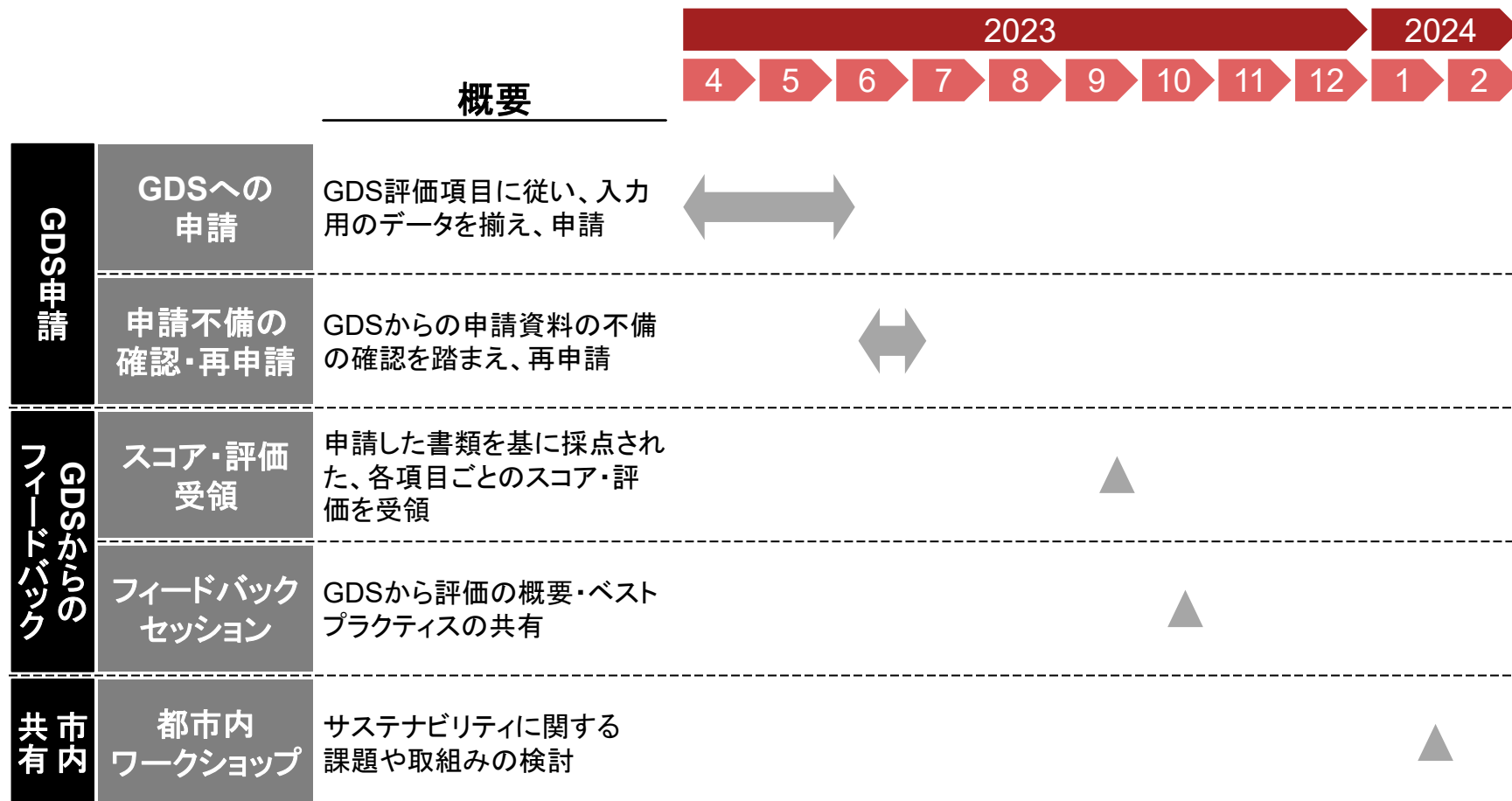
アプローチ

- ・ 熊本市、高松市の2都市にGDS-Indexへ参加してもらう
- ・ 既に把握しているGDS-Index側の年間スケジュールに合わせる形で、各都市が当該プログラムにて適切な評価を円滑に得ることができるよう、必要な助言/支援を行う
- ・ 評価を終えた上で、各参加都市が行うべき取組・改善策についても、フィードバックセッションを通じて提案する

業務内容	実施項目	実施手法	成果物
① 各MICE 推進都市の評価指標プログラムへの参加を通じた、各都市のMICE 開催地としてのサステナビリティへの取組についての効果や課題の把握・整理と改善策の検討・提案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本市、高松市に対しGDS-Indexの参加を支援 ・ サステナビリティ推進のトレンドからの評価、取組推進による効果、強み・弱みを整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各都市と連携し、GDSと協働しながら実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ GDSから出される各都市への評価資料(GDSが用意した資料の和訳版)
② 我が国としてMICE 開催都市におけるサステナビリティへの取組に関しさらに改善・強化すべき点や、今後国際的にアピール・発信強化すべき点等の整理・提案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の各都市共通・特徴的な傾向として改善を図るべき取組・課題、国としてのアピールすべき点を検討・整理 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各都市・国の抱える課題と今後必要と考えられる取り組みまとめ

熊本・高松はGDS初参加であったが、申請からフィードバックまで積極的に進め、サステナビリティに関する取組みのきっかけを得た

本事業におけるGDS関連のスケジュール



GDS-Indexの評価指標として、「環境」のカテゴリでは、気候、エネルギー、排出、資源や空気の質、水などの指標で評価される

GDS-Index「環境」の指標一覧(1/2)

#	サブカテゴリ	指標
EN-1	気候、エネルギー、 排出	市は気候変動緩和および適応戦略を持っていますか？
EN-2		市は、パリ協定に則り温室効果ガス(GHG)排出量を測定および削減する国際的な運動に参加していますか？
EN-3		市の2030年までの排出削減目標は、通常のビジネス運営水準と比べてどの程度ですか？基準年を明示してください。
EN-4		市の1人当たりの温室効果ガスの基本排出量は、どれくらいの炭素当量トンで計測されていますか？あなたの目的地でのこの数値の計算方法も説明してください。
EN-5		市の総電力消費量のうち、再生可能エネルギー源から供給されている割合は何パーセントですか？再生可能エネルギー由来の消費される（生産ではない）電力を、すべての電力消費で割って、割合を計算してください。
EN-6	資源	市は公に利用可能な循環型経済戦略を持っていますか？該当する項目をすべて選択してください。
EN-7		市の一般廃棄物のうち、何パーセントが埋立地に廃棄されていますか？
EN-8		市の一般廃棄物のうち、リサイクルされる割合は何パーセントですか？堆肥化は含め、焼却は含めないでください。
EN-9		市の一般廃棄物の1人当たりの年間収集総量は何キログラムですか？

GDS-Index「環境」の指標一覧(2/2)

#	サブカテゴリ	指標
EN-10	空気の質	市の年間の微細粒子状物質(PM2.5)濃度は何ですか？
EN-11		市の年間の粒子状物質(PM10)濃度は何ですか？
EN-12	水	市の汚水のうち、中央処理されている割合は何パーセントですか？
EN-13		国の社会進歩指数における水と衛生のスコアは何ですか？
EN-14	交通	人口密度に対する目的地内の自転車道の総距離は何キロメートルですか？
EN-15		市は市民の健康を向上させ、汚染を減少させるための統合された移動計画や取り組みがありますか？該当する項目を選択してください。
EN-16	生物多様性	市は生物多様性戦略を持ってありますか？それには何が含まれていますか？
EN-17		市の緑地と水辺エリアは、1万人当たり何ヘクタールですか？

GDS-Indexの評価指標として、「社会」のカテゴリでは、SDGs、社会進歩、腐敗などの指標で評価される

GDS-Index「社会」の指標一覧

#	サブカテゴリ	指標
SO-1	SDGs	市の持続可能性戦略は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)とどの程度一致していますか？
SO-2		国は国連SDGsの実施におけるパフォーマンスをUN SDG指数でどのように評価されていますか？
SO-3	社会進歩	国の社会進歩指数は何ですか？
SO-4	腐敗	国の財務透明度指数は何ですか？
SO-5	個人の安全	国の社会進歩指数における「個人の安全」のスコアは何ですか？
SO-6	情報へのアクセス	国の社会進歩指数における「情報とコミュニケーションへのアクセス」のスコアは何ですか？
SO-7	健康とウェルネス	国の社会進歩指数における「健康とウェルネス」のスコアは何ですか？
SO-8		市の危機管理計画には、観光とイベントが含まれていますか？
SO-9	包摂性	国の社会進歩指数における「寛容と包摂」のスコアは何ですか？
SO-10		市の歩道と公共交通システムは、障害のある人々のアクセシビリティ向上をサポートするために適応されていますか？以下から選択してください。
SO-11		市議会またはDMOは、重要な観光トピックについて地元住民とどのように協力し、意見を聞き入れていますか？該当する項目をすべて選択してください。

GDS-Indexの評価指標として、「サプライヤー」のカテゴリでは、ホテル、空港、エージェンシーや会場、アカデミアなどの指標で評価される

GDS-Index「サプライヤー」の指標一覧(1/2)

#	サブカテゴリ	指標
SU-1	ホテル	目的地のホテル客室の何パーセントが有効な第三者の持続可能性認証を取得していますか？人口規模ごとに決定される適切なホテル客室数に関するガイドラインを参照してください。
SU-2		ホテルによる、より循環型経済を作成するために、目的地全体でホテルを対象とする取り組みやプログラムはありますか？該当する項目をすべて選択してください。
SU-3		目的地は、持続可能な食品に取り組むホテルを促進し、サポートするプログラムを持っていますか？プログラムが対応する領域を選択してください。
SU-4	空港	目的地の主要な空港の何パーセントが持続可能性の管理に関する第三者認証(たとえばISO 14001)を現在取得していますか？複数の空港がある場合は平均値を計算してください。
SU-5		目的地の主要な空港の何パーセントが、直接の排出量(フライトではなく)についてカーボンニュートラルですか？複数の空港がある場合は平均値を計算してください。
SU-6	エージェンシー	目的地内にあるイベントエージェンシーの何パーセントが正式で書面化された持続可能性ポリシーを持っていますか？
SU-7		目的地内にあるイベントエージェンシーの何パーセントが、有効な第三者による持続可能性認証を受けていますか？
SU-8		目的地内にあるトップ10の観光名所の何パーセントが有効な第三者による持続可能性認証を受けていますか？
SU-9	レストラン	レストランによる、より循環型経済を作成するために、目的地全体でレストランを対象とする取り組みやプログラムはありますか？該当する項目をすべて選択してください。
SU-10		目的地は、持続可能な食品に取り組むレストランとケータリング業者を促進し、サポートするプログラムを持っていますか？プログラムが対応する領域を選択してください。
SU-11		目的地は、持続可能な食品に取り組むレストランとケータリング業者に対する第三者認証を促進し、奨励していますか？

GDS-Index「サプライヤー」の指標一覧(2/2)

#	サブカテゴリ	指標
SU-12	会場	目的地の専用のコンベンション、会議、および展示センターの何パーセントが、運営に関して有効な第三者による持続可能性認証を受けていますか？
SU-13	アカデミア	目的地の大学、単科大学、およびホスピタリティ学校の何パーセントが持続可能性を観光およびイベント管理の学部カリキュラムに組み込んでいますか？
SU-14		目的地の大学、単科大学、およびホスピタリティ学校の何パーセントが持続可能性をの観光およびイベント管理の大学院(修士など)カリキュラムに組み込んでいますか？

GDS-Indexの評価指標として、「DMO」のカテゴリでは、戦略、ポリシーと認証やガバナンス、人材開発、測定と報告の他、マーケティングとコミュニケーション、アクセシビリティ、再生支援の指標で評価される

GDS-Index「DMO」の指標一覧(1/3)

#	サブカテゴリ	指標
DM-1	戦略	DMOは、訪問者経済のための持続可能性戦略を持っていますか？該当する項目をすべて選択してください。
DM-2		DMOは、多様性、平等、および包括(DEI)に関する目的地レベルのプログラムを持っていますか？このプログラムに含まれるすべてのオプションを選択してください。
DM-3		DMOの戦略には、社会的にポジティブな結果を生み出すための目標、指標、ターゲット、および行動計画が含まれていますか？適用されるものを選択してください。
DM-4		DMOの戦略には、環境的にポジティブな結果を生み出すための目標、指標、ターゲット、および行動計画が含まれていますか？適用されるものを選択してください。
DM-5		DMOの戦略には、経済的にポジティブな結果を生み出すための目標、指標、ターゲット、および行動計画が含まれていますか？適用されるものを選択してください。
DM-6		DMOの持続可能性戦略は、幅広い利害関係者との協議を通じて開発されましたか？適用されるものを選択し、利害関係者のフィードバックが戦略にどのように反映されているかを説明してください。
DM-7		DMOの持続可能性戦略とその開発プロセスは、過去3年間に主要な利害関係者グループに対してレビューおよび/または更新され、公に公開されましたか？適用されるものを選択してください。
DM-8	ポリシーと認証	DMOは、最高幹部のサポートを得て公に利用可能な持続可能性ポリシーを文書化し、組織の将来像、公約、および主要な目標を定義していますか？
DM-9		DMOは、調達/購買プラクティス、期待値、およびサプライヤからの要件を明確に定義する持続可能な調達ポリシーを持っていますか？
DM-10		DMOは、自身のイベントおよび/またはオフィス運営のための現行の第三者持続可能性認証を保持しているか、または取得の正式なプロセス中にありますか？

GDS-Index「DMO」の指標一覧(2/3)

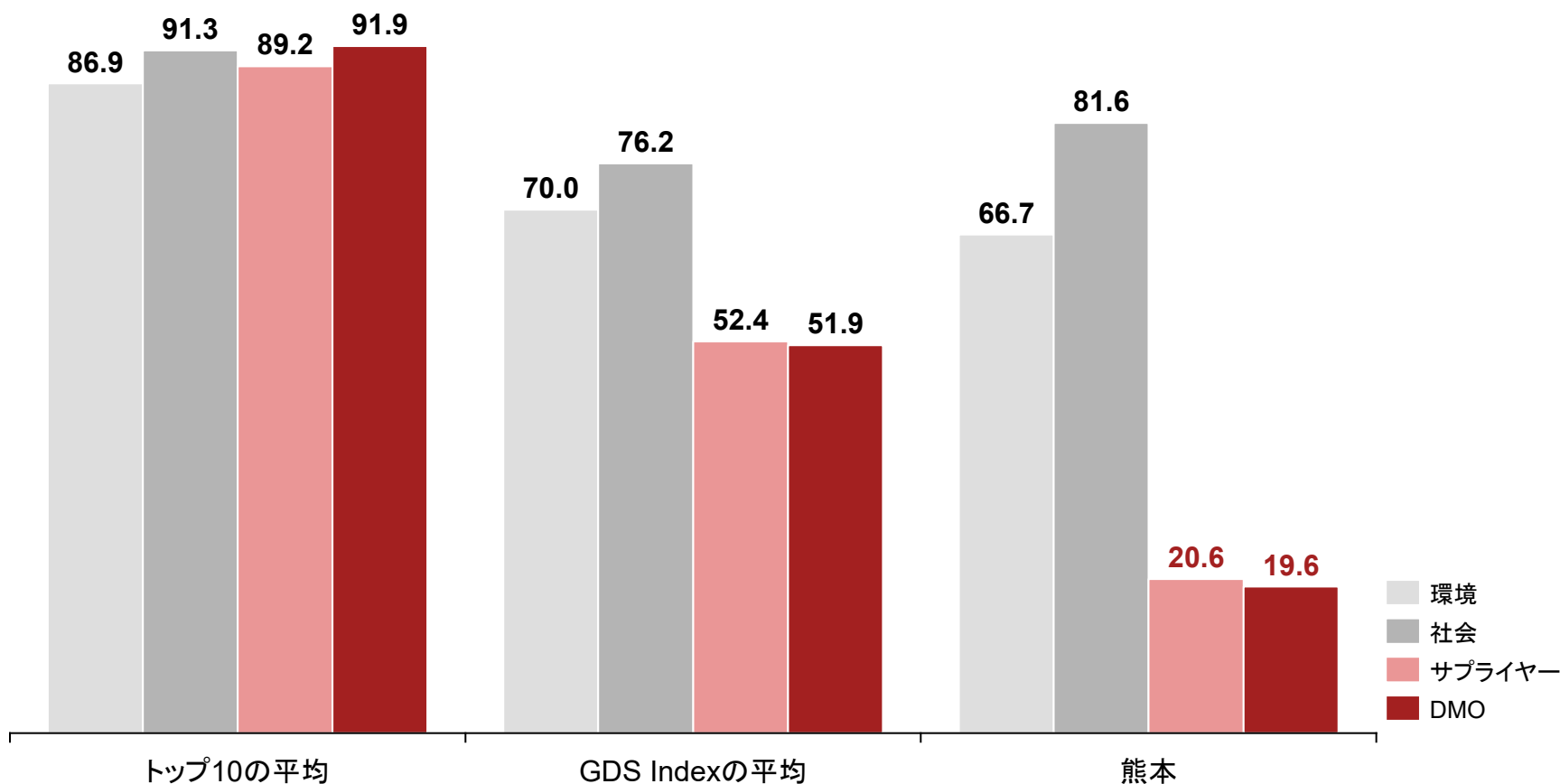
#	サブカテゴリ	指標
DM-11	ポリシーと認証	目的地は、現行の第三者持続可能な目的地認証を保持しているか、または取得の正式なプロセス中にありますか？
DM-12	ガバナンス	DMOは持続可能な観光およびイベントプログラムの開発とガバナンスをどのように管理していますか？該当する項目をすべて選択してください。
DM-13	人材開発	DMO内の新規および既存のスタッフは、定期的なガイダンスとトレーニングを受けて、DMOの持続可能性戦略に関する情報と、その遂行における役割と責任を理解していますか？該当する項目をすべて選択してください。
DM-14		DMOは、過去1年間に観光およびイベントのバリューチェーン向けの持続可能性トレーニングをサポートまたは主催しましたか？
DM-15		DMOは、観光およびイベントサプライチェーンに対して、サプライヤーの持続可能性パフォーマンス向上を支援していますか？具体的に説明してください。
DM-16	測定と報告	DMOは観光の環境、経済、社会的な影響とパフォーマンスを測定およびモニタリングするシステムを持っていますか？ 以下のオプションから、どの問題のデータが収集されたかを選択してください。
DM-17		DMOはイベントの環境、経済、社会的な影響とパフォーマンスを測定およびモニタリングするシステムを持っていますか？ 以下のオプションから、どの問題のデータが収集されたかを選択してください。
DM-18		DMOは持続可能性目標への進捗状況をどのように公に伝え、報告していますか？
DM-19		DMOは、持続可能な観光目的地戦略とパフォーマンスの改善に関する公式の報告フレームワークを使用していますか？該当する項目をすべて選択してください。

GDS-Index「DMO」の指標一覧(3/3)

#	サブカテゴリ	指標
DM-20	マーケティングとコミュニケーション	DMOの観光およびイベントのウェブサイトは、目的地の持続可能なイベントと観光戦略、および取り組みに関する情報を提供していますか？該当する項目をすべて選択してください。
DM-21		展示会に出展する際、ブースは持続可能な素材から作成されていますか？該当する項目をすべて選択してください。
DM-22		DMOは、RFP回答およびセールス情報で目的地の持続可能性戦略とパフォーマンスに関する情報を提供していますか？
DM-23	アクセシビリティ	DMOは訪問者とイベント参加者に対してソフトモビリティの利用を積極的に促進していますか？
DM-24		DMOは訪問者とイベント参加者に対して公共交通機関の利用を奨励するための財政的なインセンティブを提供していますか？
DM-25		DMOは、訪問者がアクセシビリティの課題を克服し、目的地を移動できるよう支援するための興味深い場所、交通路線、ホテル、会場のリストを提供していますか？回答を説明してください。
DM-26	再生支援	DMOはクライアントに、地元の社会的、環境的、または経済的な課題やプロジェクトを支援するためのアイデアとリソースを提供していますか？該当する項目をすべて選択し、回答を説明してください。
DM-27		DMOはイベントに対するレガシーと社会的影響のプログラムを持っていますか？

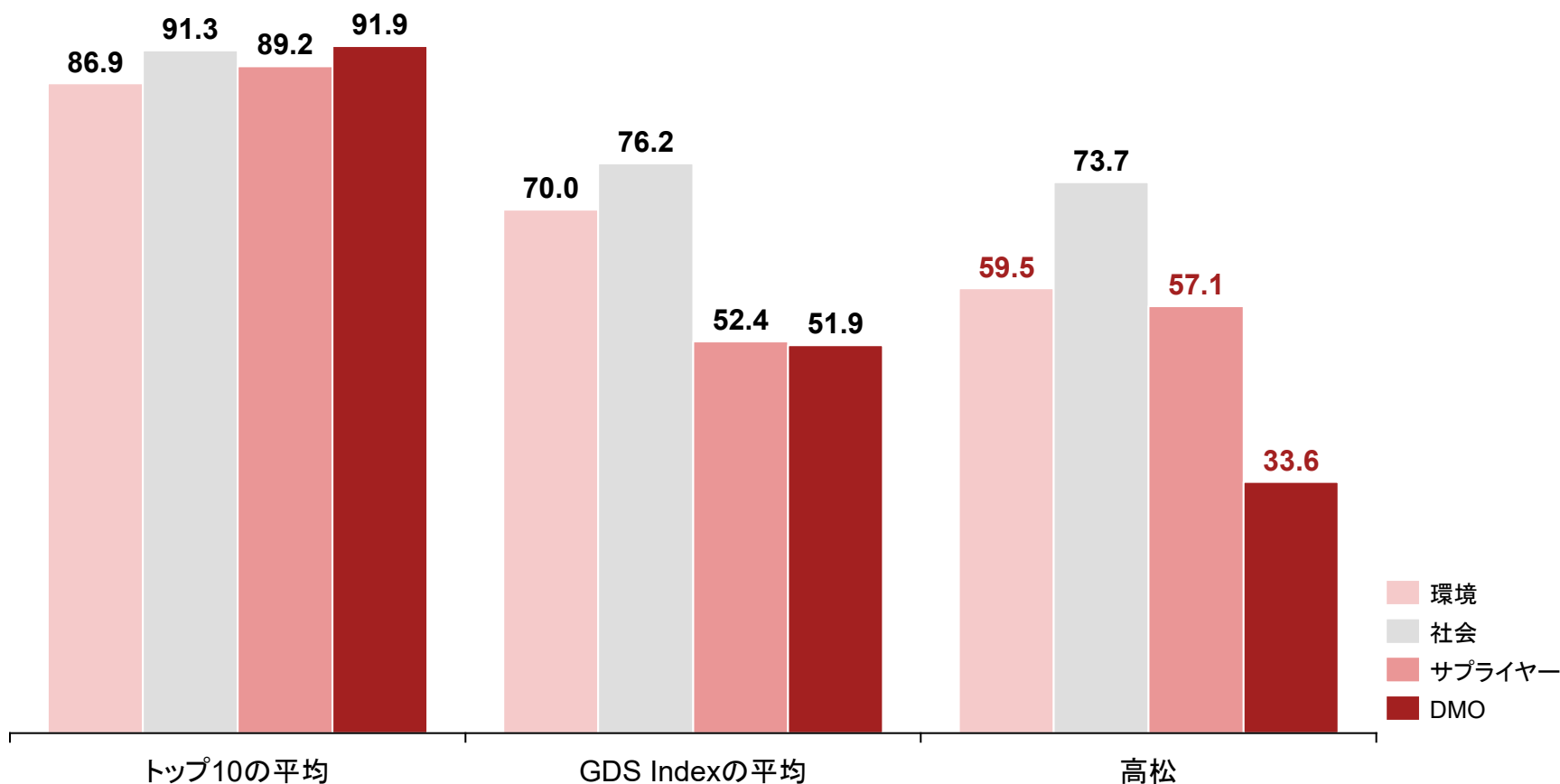
熊本は、特にサプライヤー・DMOの 카테고리において 改善の余地が大きい

GDS-Indexのパフォーマンス比較(2023年)



高松は、特にDMOの 카테고리において改善の余地が大きい

GDS-Indexのパフォーマンス比較(2023年)



日本は札幌・高松・熊本がGDS-Indexの評価を受けたものの、 Top30外の結果となった

GDS-Indexの国際順位(2023年)

順位	都市名	評価
#1	ヨーテボリ(スウェーデン)	95%
#2	オスロ(ノルウェー)	92%
#3	コペンハーゲン(デンマーク)	92%
#4	ヘルシンキ(フィンランド)	90%
#5	ベルゲン(ノルウェー)	90%
#6	オーフス(デンマーク)	89%
#7	オールボー(デンマーク)	88%
#8	グラスゴー(スコットランド)	87%
#9	ボルドー(フランス)	87%
#10	ストックホルム(スウェーデン)	87%
#14	高陽(韓国)※	83%
#17	シンガポール(シンガポール)※	82%
#30	スベンボル(デンマーク)	77%
Top30外	札幌(日本)※	67%
	高松(日本)※	53%
	熊本(日本)※	45%

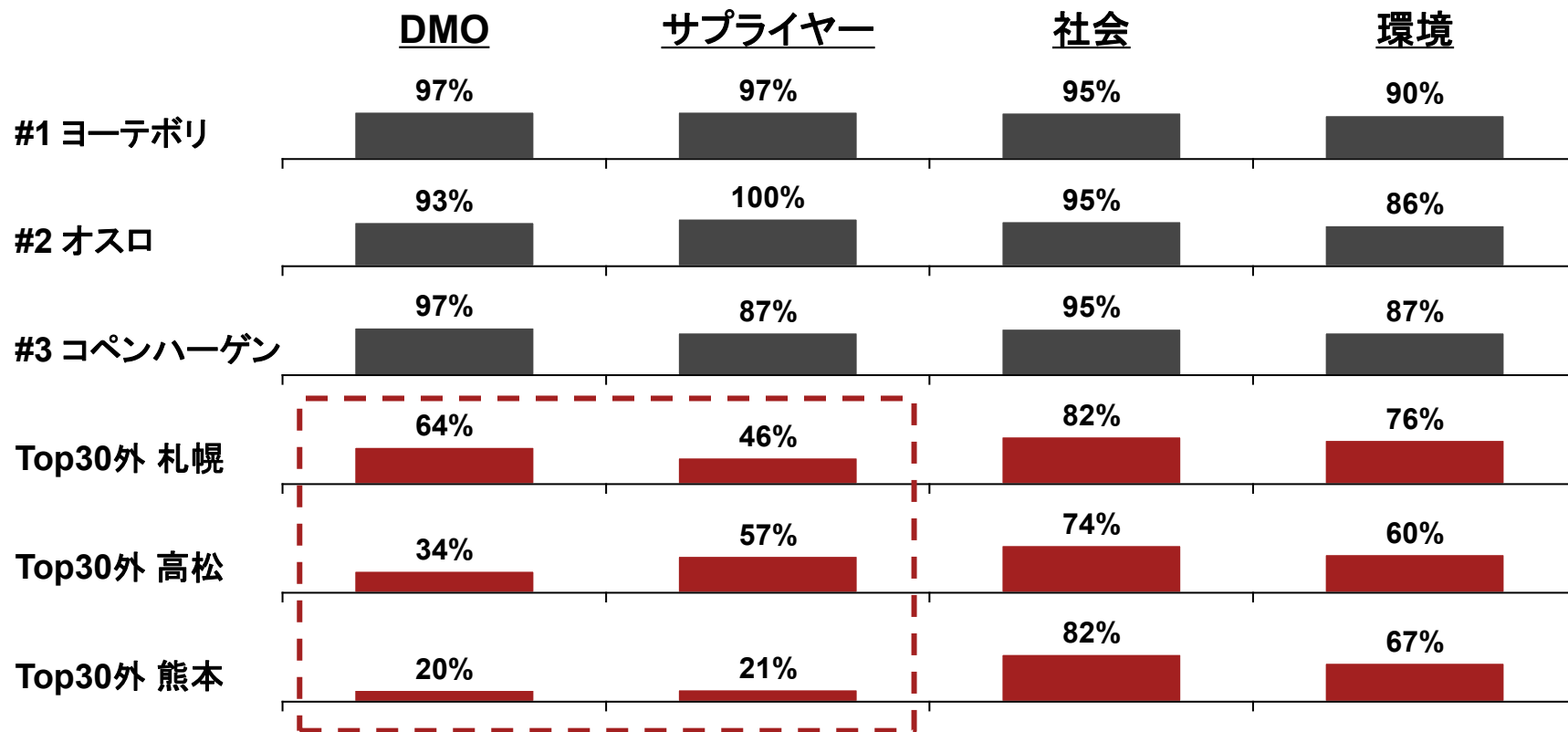
ヨーテボリは
7年連続第1位

日本から参加している
都市は
札幌・高松・熊本のみ
(京都は2016~2020年
に参加)

※アジア太平洋の都市

日本は札幌・高松・熊本がGDS-Indexの評価を受けたものの、 DMO/サプライヤーの評価の低さが響き、Top30外となる

GDS-Index Top3都市と札幌・高松・熊本の評価内訳比較

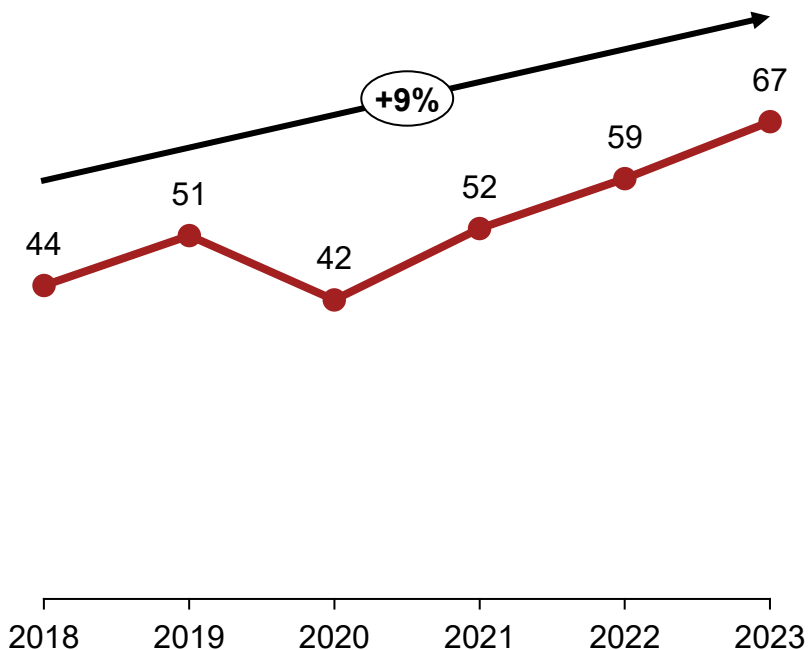


GDS-Indexの4つの評価基準(※)のうち、札幌・高松・熊本は特にDMOとサプライヤーにおける評価が相対的に低く、国際順位を押し下げる要因となる

一方で2016年からGDSに参加している札幌は着実にスコアを伸ばしており、参加継続の重要性が窺える

札幌のGDS-Indexスコア推移と継続のメリット

GDS-Indexスコア※1の推移(札幌市)



札幌では2018年から2023年までの5年間で、
年率約9%の伸びを見せている

GDS-Index に継続参加することのメリット※2

CBユリ

- **最新動向の把握**
 - 毎年更新されるGDSの評価項目により、グローバルレベルでの最新のニーズ・トレンドを把握できる
 - GDS関連の集まりで参加都市とサステナビリティに関する情報交換ができる
- **入力手間の軽減**
 - 申請のために必要なデータの所在を把握できているためスムーズな入力が可能になる

地域ユリ

- **サステナビリティに対する意識の向上**
 - 札幌市内でサステナビリティに関する取組を実施していることを知り、行政や民間、地域住民の意識が向上する
- **MICE誘致力の向上**
 - GDSに参加していることがMICE主催者へのコンタクトのきっかけとなり、開催することで地域に経済的なメリットをもたらす

※1: 出所) GDS-IndexのHP、スコアはGDS-Indexの評価カテゴリ「環境」、「社会」、「サプライヤー」、「DMO」の総合評価
※2: 札幌CBヒアリング結果

振り返り討議では、GDS-Indexの評価基準に則った今後の目指すべき方向性や、回答時のテクニック等を議論した

高松の振り返り討議でのGDS-Indexアセスメント委員の主なコメント

A) GDS-Indexの評価結果を踏まえた質疑

1. サステナブルな取組みの重要性

- ・ 主催者の25%、参加者の半分以上がサステナビリティに関心を持っており、今後**サステナビリティに関して質問があった際に回答できる準備をしておくことが重要**である

2. 第三者認証

- ・ 高松市として取得を目指すべき第三者認証は、**Guiding Notesに掲載されている認証や、GSTCやISO17065に準拠した認証が望ましい**

3. サステナビリティレポートの書き方

- ・ GRIやCDPなどの公式のフレームワークを用いている都市があり、例えばヨーテボリ等の**世界の都市が作成しているレポートの勉強会を実施すべき**である

B) 入力のコツ

1. 英語入力

- ・ 今後マンダリンオリエンタルホテルが開業することも踏まえると英語での対応は必要不可欠であり、**英語人材の育成・獲得がカギ**となる

2. 回答テクニック

- ・ 選択肢を選ぶ設問、テンプレートへの入力をする設問など全設問において**関連事例を記載すべき**であり、加えて、数値を答える項目においては、**計算式を明記すべき**である

高松市内の代表的な施設は、各々が必要と考えるサステナブルな取組みを推進している

高松市内の施設訪問・意見交換会で得られた各施設のコメント



施設①

- 昨年度の4月から施設全体として**電力の100%が再生可能エネルギー由来**である
- 感染症予防対策認証である「**GBAC STAR**」を取得している



施設②

- スポーツ振興から音楽など、分野を変えることで**幅広い人材教育**を行っている
- コロナ禍において安心して来場していただくため、**衛生管理基準として「SAFEGUARD」**を取得した



施設③

- 「CO₂ゼロMICE」を活用し、**オフセットによって証書を発行**することを検討している
- **ISO14001(自己適合宣言)の枠組みで取組みを推進**していく予定である



施設間討議では、施設内・人材・都市全体の課題が浮き彫りになり、今後の方向性を定める上で一助となる議論ができた

高松の施設間討議で挙げられた課題と、解消に向けての方向性

	主な課題	今後の方向性
個別施設として	<ul style="list-style-type: none"> 紙の無駄遣い <ul style="list-style-type: none"> 未だに紙でのやりとりが多く発生しており、無駄である フードロス <ul style="list-style-type: none"> 飲食店やホテルで発注数を減らすことは売上減となり難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ベストプラクティスを踏まえた改善活動 <ul style="list-style-type: none"> グローバル含めた市内外の他施設の取組みを参考にし、できるところから改善していく
都市全体として	<ul style="list-style-type: none"> ポリシー・連携機会の欠如 <ul style="list-style-type: none"> 市としてのポリシーがない／共有されていない、かつ施設間の連携が乏しい その結果、各施設が独自で取組んでいるものの、「どの程度やればいいのか」がわかりにくい サステナビリティの意識・知識不足 <ul style="list-style-type: none"> 職員・市民レベルでサステナビリティに関する意識が低く、知識がない 	<ul style="list-style-type: none"> ポリシーの作成・共有 <ul style="list-style-type: none"> 行政として明確にポリシーを定め、各施設の取組みを推進する 施設間の連携機会を増やし、課題共有や良い仕掛けの横展開を効率的に行う 各種啓蒙活動の促進 <ul style="list-style-type: none"> サステナビリティに関するワークショップやイベントを開催する コアとなる施設の担当者自ら、サステナビリティを周囲に発信する

振り返り討議では、GDS-Indexの評価基準に則った今後の目指すべき方向性や、回答時のテクニック等を議論した

熊本の振り返り討議でのGDS-Indexアセスメント委員の主なコメント

A) GDS-Indexの評価結果を踏まえた質疑

1. フードロスの取組み例

- ・ パシフィコ横浜では、残飯を豚の飼料に加工して与え、その豚肉をパシフィコ横浜で提供する**食料のサイクルを形成**しており、国際会議を誘致する際にこの取組みをアピールしている

2. DMOと各施設の連携

- ・ 施設側として何をすべきか明らかにしてほしいという要望もあったが、DMOはサプライヤーとの関係をより密接にして取組みを把握するために、まずは**議論の場を設けるべき**である。実際、高松市は各ホテルの情報を緻密に把握できていた

3. 具体的なポリシーの作成方法

- ・ 熊本市内で勉強会を開き、**東京が作成しているようなガイドラインを参考にすべき**ではないか

B) 入力のコツ

1. 英語入力

- ・ 最近ChatGPTやGoogle翻訳などの翻訳ツールの精度も向上しているので、英語入力が難しい場合は、そのような**翻訳ツールを活用して回答すべき**である

2. 回答テクニック

- ・ 少人数で入力している様子が窺えたが、組織内で**分担して入力するとスムーズに行えるはず**である

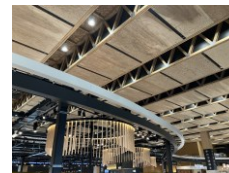
熊本市内の代表的な施設は、2016年の熊本地震を踏まえたサステナブルな取組みを推進している

熊本市内の施設訪問で得られた各施設のコメント



施設①

- 空港の天井に用いている**県産材は、東京オリンピックの選手村で使った木材を再利用**している
- 駐車場では、屋根として**太陽光パネルを設置**しており、ターミナルビルの2, 3割の電力を賄う



天井の県産材

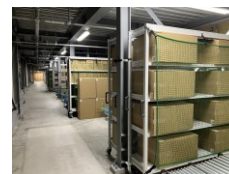


太陽光パネル



施設②

- ホールの余ったスペースに**備蓄倉庫があり、食料や水、毛布を保管**(11,000人×3日分)している
- **化学物質過敏症の方が利用可能な会議室**を一部用意しており、多目的トイレも対応済みである



備蓄倉庫



会議室の
注意書き



施設③

- 客室**アメニティ5品目について、プラスチック使用重量を28%削減**した
- 熊本地震の際には、**8日間にわたり、1日150~200食の温かいご飯を提供**した



客室アメニティ



ボランティア活動

施設間討議では、施設内・人材・都市全体の課題が浮き彫りになり、今後の方向性を定める上で一助となる議論ができた

熊本の施設間討議で挙げられた課題と、解消に向けての方向性

	主な課題	今後の方向性
個別施設として	<ul style="list-style-type: none">電力・ガスの無駄遣い<ul style="list-style-type: none">電力・ガスの利用にまだ無駄があると感じているフードロス<ul style="list-style-type: none">コミュニケーションを目的とする宴会が多く、フードロスが大量に発生している	<ul style="list-style-type: none">AI技術の活用<ul style="list-style-type: none">AIによって最適な使用量に調整し、削減を試みる(AI導入のため、約3年の実証を行う予定の施設がある)食事時間の確保<ul style="list-style-type: none">宴会において、食事に集中する時間を設けるよう主催者に働きかける
都市全体として	<ul style="list-style-type: none">ポリシー・連携機会の欠如<ul style="list-style-type: none">市としてのポリシーがない／共有されていない、かつ施設間の連携が乏しいその結果、各施設が独自で取組んでいるものの、「どの程度やればいいのか」がわかりにくい取組み資金の不足<ul style="list-style-type: none">サステナブルな商品は値段が高く、取組み効果への実感が無いなか、切り替えに踏み切れない	<ul style="list-style-type: none">ポリシーの作成・共有<ul style="list-style-type: none">行政として明確にポリシーを定め、各施設の取組みを推進する施設間の連携機会を増やし、課題共有や良い仕掛けの横展開を効率的に行うインセンティブの提供<ul style="list-style-type: none">サステナビリティに関する取組みを行う施設に対して、行政から金銭的な支援を行う

熊本・高松は、GDS参加申請のためのデータ入力に苦勞したが、 現状が把握できたと共に、今後の取組のヒントを得られた

熊本・高松CBのGDS参加経験談

苦勞した点

- データの所在把握
 - GDS-Indexの評価項目に回答するためにどこのどのデータを用いるべきか検討がつかず、見つけるのに非常に時間がかかった、あるいは見当たらなかった
- 英語資料の読解
 - 質問文が英語で記載されていたため、質問の意図がなかなか理解できなかった

参加したメリット

- 組織外との連携促進
 - 高松CBのみではGDS-Indexの「環境」、「社会」に記載されている項目を改善することは難しいため、高松市役所との連携が進んだ
 - 高松では、ステークホルダーである会場等の施設間での定例会(年4回)を行い、持続可能な取組をテーマとした発表ができる場となり、今後の取組(出来ることから取組める)を検討できた
- 入力のコツの把握
 - 苦勞しながらデータを探し、入力したことでコツが掴めた

今後の方針

- 優先課題への取組み
 - 熊本では、「入力の工夫でスコアが向上するもの」、「少し取組めばスコアが向上するもの」、「改善に努力を要するもの」の3つに分けて順に取組むべきと考えている
 - 高松では、香川県や高松市独自の制度を入力することや、事業者との話し合いの場を設けて具体的な取組エピソードを把握すること、市で課題となっている海ゴミの解決等に力を入れていきたいと考えている

各都市・国として、施設間・内、官民の連携、人材の観点で課題が見られ、連携の仕組みづくりや人材育成のための金銭的支援が求められる

各都市・国としての課題と目指すべき方向性

主な課題

今後の方向性

日本の各都市として

- 紙を用いる文化の弊害
 - 書類での手続き等無駄が多く、環境負荷も高い
(例：高松では役所関連の手続きで無駄が多い)
- 人材不足への対応
 - 多言語に対応できる人材が不足している
(例：熊本・高松では人材不足が顕著)
- 施設間・内の連携の弱さ
 - 各施設間での連携が欠如しており、情報共有ができていない(例：高松では、会議場同士でも互いの取組を把握していない)
 - 組織内でも縦割り型のために他部門・部署の活動内容を把握していない(例：高松CB内でも課が異なると取組内容を把握していない)

国として

- 各都市との連携不足
 - 各都市と情報交換出来ておらず、特に地方都市のニーズを把握できていない
(例：熊本・高松のいずれも行政に支援を求める環境が不足していると感じている)
- 人材不足への対応
 - 地方が人材不足に陥るなか、適切なサポートを行えていない(例：高松では英語人材が不足しており、国から人の派遣や教育支援があると嬉しい)

- オンラインシステムの活用
 - PCやスマホ、タブレット等の端末を用い、オンライン上でやりとりを完結させる
- 人材の教育・誘致
 - 市内で多言語を用いる機会を増やす他、他都市から多言語対応可能な人材を確保する
- 施設間・内での情報共有機会の確保
 - 施設間・内を問わず、定期的に情報交換の場を設け、現状や今後の取組みについて議論する
- 各都市との意見交換の場を提供
 - 各都市がどのような課題を持っているか把握するための会議等を定期的開催する
 - 各都市の課題に対して、国としてサポート可能な事項を検討する会議を開催する
- 人材確保のための金銭的支援
 - 地方都市が優秀な人材を確保可能にするための、環境整備や待遇改善に向けた金銭的な支援を実施する

本事業ではGDS参加の支援を通じ、CB・国としてサステナビリティ推進に向け今後行うべき事項を把握することができた

